

茗溪



春

2017

平成29年

no.1093

目次

- グラビア …… 01
- 平成28年度 茗溪会賞受賞者紹介（その2） …… 02～03
- 社会貢献に活躍する人々～茗溪会賞受賞者のいま～ …… 04～05
- 組織委員会報告茗溪会の仲間を大切にする同窓会活動！ …… 06～09
- 平成28年度 教職受験対策 …… 10
- 平成29年度 茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画 …… 11
- 「宣揚歌」誕生物語 …… 12～13
- 茗溪・東西南北 …… 14～15
- 著書紹介 …… 15
- 筑波大学はいま …… 16
- 茗溪学園だより …… 17
- 第16回顕彰「茗溪会賞」候補者の推薦依頼について …… 18
- 平成29年度『茗溪フェロー』ご協力をお願い …… 18
- 平成28年度『茗溪フェロー』協力者ご芳名 …… 19
- 桐の葉のつどい …… 20～21
- 箱根駅伝 …… 20
- 定時総会開催のご案内 平成28・29年度 茗溪会 代議員一覧 …… 22
- 追悼録 …… 23
- 特集の予告「人間 嘉納治五郎を語る」 …… 24
- 広報 …… 25
- 表紙のことば …… 25
- 編集後記 …… 25

新入生に囲まれる嘉納治五郎像・大学会館前広場



ユ
Juchheim
SEIT 1909

日本のパウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてパウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたパウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユ-ハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉学にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考えた食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことすべて
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード
TEL.03-6632-5052 (代表)

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

- 工学部 機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科
臨床工学科
- 創造工学部 自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部 応用バイオ科学科
栄養生命科学科[管理栄養士養成課程]
- 情報学部 情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科
- 看護学部 看護学科

理事長 中部謙一郎
常務理事 河野 隆二(S47農)
監査室 矢野 正人(S53院修農)(神奈川茗溪会 会長)
教職センター 大畑多津雄(S52理 数)(同 副会長)
教職センター 望月 正大(S51理 数)(同 副会長)
早期学生支援室 掛原 豊(S54農林学類)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:http://www.kait.jp/

平成 28 年度 茗溪会賞 芸術部門受賞者



話の話

荒木 名月さん
(洋画)



瞼の裏の補助線

推薦者 福満 正志郎先生



アトリエ

河原 由佳さん
(洋画)

推薦者 内藤 定壽先生



記憶

小谷 恵子さん
(クラフト)

推薦者 宮原 克人先生

第32回教職受験対策研修会

平成 29 年
3 月 6 日
～ 8 日



講師 平野正美氏



講師 中島博司氏



受講風景

受講生による模擬授業



第15回(平成28年度)

茗溪会賞受賞者紹介

大学院生の社会貢献活動・研究と

芸術分野で顕彰された方々

平成14年、茗溪会は創基百三十年を記念して、人材育成成功者として青少年の社会貢献活動功労者を対象とする顕彰事業をスタートさせましたが、その後一般の方々の社会貢献活動に対しても顕彰対象に広げるとともに、平成24年度からは筑波大学の大学院生の社会貢献活動や研究も顕彰するようになりました。また、茗溪会ではこうした大学院生の社会貢献活動や研究だけでなく、芸術分野で優れた卒業作品を制作した学生に対しても、毎年顕彰しています。

そこで前号(平成29年正月号)では、社会貢献活動で優れた業績をあげられた一般の方々をご紹介しましたので、今号では、社会貢献活動や研究で顕彰された大学院生(修了者)と芸術分野で顕彰された学生の皆さんをご紹介します。

今年度、茗溪会賞を受賞された大学院生(修了者)は25名です。大学院生(修了者)の社会貢献活動や研究は、それぞれの専門分野に関わるもの、地域の活性化に資するもの、次世代を担う子どもたちの育成をめざすものなど多岐にわたっています。

そのすべてについては次ページの一覧表でご紹介していますが、それらの中から6件の活動・研究を具体的にご紹介いたします。

また芸術分野で茗溪会賞を受賞された方は3名です。その作品はグラビアページでご覧ください。

受賞者紹介

(順不同 敬称略)

●小中高生から一般の方々までに理科実験活動

(物性・分子工学専攻 神定 輝光)
(物性・分子工学専攻 董 九超)

神定さんは修士の二年間小・中・高校生及び一般の方々を対象として科学実験・工作の事前授業を行ってきた。

「分かりやすく、不思議で面白い科学実験・工作を児童生徒に体験してほしい」という目的ではじめた「日常生活に密着した体験型の講座」は大好評であった。

また、董さんは、自身の博士研究における高分子合成と実験装置作成の経験を生かし、主として児童向けの理科啓蒙活動を行った。つくば科学フェスティバル、筑波大学重点公開講座、小中学校での理科教育など、日本語、英語、中国語を駆使して、国際都市つくばで国籍を問わずに理科教育活動を行い、修士からの筑波大学の五年間で二十人以上の児童生徒を指導した。

●自律移動ロボットの屋外走行全課題クリア

(コンピュータサイエンス専攻 安藤 大和)

安藤さんを中心とする「筑波大学知能ロボット研究室チームROSSY」は、屋外遊歩道を走行する自律移動ロボットの公開技術チャレンジである「つくばチャレンジ2016」で、出場した58台中で唯一、すべての課題をクリアして二キロを完走し、「つくば市長賞」を獲得した。安藤さんのリーダーシップのもと長期間の準備と練習を行うことにより、筑波大学の技術力の高さを社会に示した。

●市民主導の川づくりへの支援活動

(構造エネルギー工学専攻 坂本 貴啓)

坂本さんは、全国の河川市民団体を調査分析して得た知見と経験をもとに、数多くの論文等で事例を紹介したほか、大阪や鹿児島など各地の市民主導型の川づくりの現場に赴いて、講演したりワークショップを行ったりして川づくりの大切さを広く発信した。

そして、第9回関東「川の日」ワークショップではگرانプリを受賞した。

●山形県金山町の「全町まるごと博物館」活動の推進

(教育基礎学専攻 蜂屋 大八)

蜂屋さんは、「町並み景観づくり100年運動」を進めるなど独自のまちづくりを進めて来た山形県金山町のアドバイザーとして、「地元学」の住民の学習活動を立ち上げたり、総務省の「域学連携」の実践モデルとしてこの町の特徴を調査し、地域資源の付加価値を高める「全町まるごと博物館活動」を展開したりするなど、金山町の地域活性化に貢献してきている。

●地域訪問看護事業に対する支援及び貢献

(生涯発達専攻 平野 智子)

平野さんは、台東区訪問看護ステーションにおいて、区内外の高齢者・単身者等への訪問看護ケア業務に携わる一方で、著書「介護と看取り」(毎日新聞出版)の出版や専門誌への寄稿などによって、訪問看護の現場の実情を広く訴えてきた。また、「在宅ケア・リスクマネジメントマニュアル」(日本看護協会出版会)の刊行にも関わり、ケア従事者への支援にも多大な貢献をしている。平野さんの研究は学術的意義も高く、訪問看護師の支援に多大な意義を持つものである。

●フレックススクールにおけるキャンパスアيد活動

(スクールリーダーシップ開発専攻 高谷 昌樹)

茨城県では、高校改革の一環として、不登校やいじめ等で学校不適應の生徒に対してその支援を目指し、県立高校の一部を三部制単位制高校(通称フレックススクール)に改編した。

高谷さんは、その多様な課題を持つ個々の生徒のニーズに対応した支援を行うため、高校から派遣要請を受けた筑波大学大学院生を中心に存在として活躍し、生徒からも慕われ、後輩の模範となって本活動の発展に貢献した。

平成28年度 茗溪会賞 (大学院修了者) 受賞者・活動テーマ

研究科	専攻	受賞者氏名	推薦専攻長	テーマ
数理物質科学	数学	中山 優吾	加藤 久男	国際的研究集会の企画立案、研究成果の発信に貢献
	物性・分子工学	神定 輝光	日野 健一	小中高生及び一般を対象とした理科実験への社会貢献
		董 九超	日野 健一	小中高生への理科啓蒙活動
システム情報工学	社会工学	湯本 崇	谷口 守	自治体における道路維持管理業務の効率化のための支援システム構築とその活用推進活動
	リスク工学	神原 佑輔	鈴木 勉	暗号演算ライブラリTEPLAの開発・公開によるセキュリティシステム設計の支援
	コンピュータサイエンス	安藤 大和	加藤 和彦	つくばチャレンジ2016における自律移動ロボットの屋外走行課題達成
	知能機能システム	工藤 佑介	森田 昌彦	つくば市今鹿島小学校における図書紹介ロボットを介した教育支援
		川岸 卓司	森田 昌彦	研究の産業界等へのアウトリーチ活動及びコンテスト等における広報活動
構造エネルギー工学	坂本 貴啓	西岡 牧人	市民主導の川づくりへの支援活動	
生命環境科学	生物資源科学	赤塚 愛里	山岡 裕一	台湾、中国での交流活動、西安地区校友会発足に貢献
	生物機能科学	石丸 友博	田中 俊之	高校生に対する先端生命科学の啓発活動への貢献
	環境バイオマス共生学	清永 郁香	鈴木 石根	サイエンスコミュニケーションの推進活動
人間総合科学	教育学	赤池 悠	浜田 博文	児童養護施設の子どもたち及び退所者への自立支援活動
	教育基礎学	蜂屋 大八	浜田 博文	山形県最上郡金山町の全町まるごと博物館活動の推進
	学校教育学	那 楽	甲斐雄一郎	筑波大学と東北師範大学のダブルディグリー・プログラム締結への貢献
	障害科学	堀 みさき	野呂 文行	視覚障害のある学生のための支援活動
	心理学	長峯 聖人	原田 悦子	教育テスト研究センターの連携研究及び子どもの学習や適応に関するサポート活動
	生涯発達	平野 智子	小澤 温	地域訪問看護事業に対する支援及び貢献
	生涯発達科学	竹中 啓介	藤生 英行	失語症会話パートナーの派遣
	ヒューマン・ケア	宮田 澄子	庄司 一子	地域福祉への支援活動、高齢者ケアの向上に貢献
	感性認知脳科学	猪俣 朋恵	小川 園子	発達性読み書き障害のある児童への支援活動
	芸術	岩田祐佳梨	守屋 正彦	アートとデザインの活用による病院環境の改善活動
図書館情報メディア	図書館情報メディア	チランティ ジャヤンパティニ ウィジェスンダラ*	佐藤 哲司	国際化の推進活動 *Chiranthi Jayampathini Wijesundara
教育研究科	スクールリーダーシップ開発	高谷 昌樹	樋口 直宏	茨城県立フレックススクール（3部制高校）におけるキャンパスエイド活動
	教科教育	駒場 俊博	森田 純	疑問発生の研究と桜川市立紫尾小学校の全校的な取組への活用・貢献
グローバル教育院	エンパワーメント情報学プログラム	村田 耕一	岩田 洋夫	人間拡張工学に基づく装着型機器に関する研究成果のアウトリーチ活動

平成28年度 茗溪会賞 (芸術部門) 受賞者・作品名

所属	領域	受賞者氏名	推薦専攻長	作品名 (作品の概要)
芸術専門学群	クラフト	小谷 恵子	宮原 克人	「記憶」
	洋画コース	河原 由佳	内藤 定壽	「アトリエ」
人間総合科学研究科	洋画	荒木 名月	福満正志郎	「話の話」、「験の裏の補助線」

～ 茗 溪 会 賞 受 賞 者 の い ま ～



視覚障害という異文のそばで 私を支えるボランティアリズム

第五回受賞 小川 道子 氏

「おはようございますー!」声をかけ一階作業所を通り二階の録音スタジオへ。ここは杉並区にある社会福祉法人視覚障害者支援総合センター。一階はセンターが運営する就労継続支援B型チャレンジ。視覚障害者に加えて身体、知的、精神的な困難を抱えた人たちが通う就労訓練施設である。ここにボランティアとして関わって三十年近い。点字出版を主に視覚障害者の学習環境の整備、職域拡大、社会の理解促進のため様々な事業を展開するセンターで私が担うのは、広報関係の音声版製作である。区の「広報」、「区議会だより」、センター発行の専門誌『月刊視覚障害』。他にも「暮らしの便利帳」「障害者の手引き」「高齢者のしおり」等、年末には「こみ・資源の収集カレンダー」の受注も入る。これらすべてのモニターと収録を担当する。根気と時間の要る作業だ。朗読ボランティアの収録日を担

当職員が調整する。収録日の前日から前々日に出る校了ゲラを一晚で下読みし、録音当日はまず固有名詞の読みの確認と読み処理の打合せ。細かい表がぎつしりの号は打ち合わせだけでも一時間近くかかる。それから誤読をチェックしながら録っていく。そのデータを広報課の校正を経て職員がデジタル編集しマスターが完成する。音声版希望者にテープやCDをコピーし発送する作業はチャレンジの利用者の手作業。こうした受託事業収入がわずかでも利用者の工賃に加算される。

先日チャレンジのお楽しみ会があった。利用者や職員、ボランティアで二十五名の参加。チャレンジには読み合わせのボランティアがいる。点訳された図書をパソコンに精通した視覚障害者とペアを組んで、原本と照らし合わせて校正するのだ。さてこの日の会は、まずお弁当と職員手作りの豚汁で腹ごしらえ。朗読ボランティアによる短編の朗読。朗読を聞くなんて初めてという利用者もいて、物語を聞く楽しさを味わってくれたようだった。点字の歌詞カードを指で読みながら演奏を披露する人。物まねは、センター理事長や職員の声やしゃべり方の特徴を見事にとらえていて大爆笑!にわかユニット(ピアノリストでもある全盲職員と晴眼職員二人)は歌と演奏を披露。イントロクイズもあり、これは耳のいい人たちが断然強い。冗談を言って笑い合うこの時間に障害は消えていた。

四十年も前に、初めて対面朗読で中途失明の方と出会った。二時間の朗読を終えると、初老の男性は、もし帰る方向が同じなら途中の信号まで送ってくれないかという。外へ出ると空を見上げ「オヤ、曇ってきましたね」：私は仰天した。もしや見えていたのかと思ったのである。私の気持ちを察したかのように、「来たときは肌に当たる日差しがしっかりと暖かったのに今はそれが感じられないからね」と説明してくれた。しばらく歩くと「あの交差点で!あとは大丈夫ですから」。店が並んでいて空気の動きがなかった道が、ぱつとひらけて空気が流れ四つ角だとわかる。そうした角がいくつ目なのでここが自分の曲がる道だというのである。「白杖をついて道の端を歩くと却って危ないから、堂々と真中を歩くんで



すよ」とその人は笑いながら言った。目が見えない生活ってこんななんだよと最初に教えてくれたその恩人も、もういない。その頃の私には「障害」は相手と関わるうえで「大きな戸惑い」だった。

「人間はあることを十分に理解すると、そのものを意識しなくなる」と聞いたことがあるが、本当にそうだ。「国対国、人種対人種、言語の違いと同じように異なる身体(生育背景、知識、知覚様式等)をもつ障がい者と健常者のコミュニケーションのバリエーションの一つ(岩隈美穂京都大学準教授)と考えると、何だか日頃そばにいる利用者の人たちが私にいろんなメッセージを送ってくれている気がする。視覚障害者の権利のためにセンターの役割はまだまだ続くが、人とのかわりあいは、心のバリアフリーを取り除く妙薬だ。

自分の無知を恥じた若き日、婦選会館(当時)の講座に通って勉強した。「ボランティアは人の胸の扉をたたくこと、人にきちんと関わることから始めなさい」「誰からも強制されないが、自らに課した義務を、責任をもつて引き受け、自らを裏切ることなしにはその義務を投げ出さないのがボランティアの生きる世界」この教えが私の活動を支えるボランティアリズムと言える。見えないという世界の文化から学び、朗読者としての専門性を活かして見えているからこそわかる世界を共通の言葉にして「声」で伝える。これが今の私のボランティア活動である。

社会貢献に活躍する人々



茶道ボランティア

第九回受賞 長船 園子 氏

月日の経つのは早いもので、身に余る賞を頂戴してから六年が過ぎました。

その間に、夫の入院、胃ろうを付けての退院となり、家庭介護で訪診の先生や看護師さんの手助けで一年半かけて栄養液ばかりに頼らず、口からの食事が出来る様になり、胃ろうもそろそろ外すことも考えていたのですが、最近、風邪を引き、又々栄養液を注入しなければならなくなってしまいました。それと難病の進行もあり、今迄の毎週のボランティア活動が無理になりました。茶道の方は、もう一か所頼まれて断りされず、二ヶ所で続けております。

また、デイサービスの職員の方も転勤、出産、家庭の事情等という事で異動されたり、退職される方も多く、介護の現場の大変さが身近に感じられます。通所される方も顔なじみの方が来られなくなったりするのは寂しいことです。

茶道のボランティアと云いまして、後から頼まれた所は、茶碗があるのでお茶だけ点てて欲しいと云われ、簡単に引き受け

てはみたものの、抹茶用の茶碗にまじり小井みたいなものもあり、とても年配の力弱き女性には手に取って飲めるものではなく、取り敢えずお盆、棗、茶筌、建水など持参して立札の盆点前という事で始めました。

茶道と申しまして、現実には、一服の抹茶とお菓子を楽しむ会で、堅苦しい礼儀作法などは申しません。女性の方は娘時代に花嫁修業で習いましたという方が多く、「お相伴いたします」「お先に頂戴いたします」「お点前頂戴いたします」「結構なお服かげんで」などときちんと挨拶され、私も嬉しくなります。又、飲み方も茶碗を手前から回したりと流派により色々ありますので、茶碗の正面をはずせば、皆さんのお好きな様にやって頂いております。

又、男性の中には濃茶の回し飲みのイメージが強いのか、回し飲みなんか出来ないと言って眠ったふりをされたり、青汁みたいで嫌だと言われたりしましたが、薄茶で一椀一人ずつですと言いますと、それならと、一粒の干菓子と共に初めて飲んだ抹茶が苦くないという事がわかり、「うまい!!お代り!!」と嬉しい言葉を頂いたこともあります。

抹茶と言うと苦くて作法が堅苦しくてと思われる様で、あまりむつかしい事は言わず、楽しく一服の抹茶とお菓子を味わって頂くという事をモットーに続けております。

通所の方々に楽しく抹茶を頂いてもらう為には介護士の方々の協力がなくては出来ません。お菓子やお茶を運んだり、茶碗を洗ったり、琴の音を流して下さったりと大忙しなのですが、「その後の抹茶が楽しみですから」と快くお手伝いをして下さるので、大変助かっています。

最近ボランティアの方が少なくなってきた様で、益々介護士さんの仕事の大変さを実感しています。抹茶を点てながら、通所の人達と季節の話題、着物や帯のこと、スポーツの話など、おしゃべりも楽しんでおります。

年々、通所される方々との年齢が近づいて来ていますので、いつ迄、私も続けられるか不安になることもあります。ですが、帯が結べなくなったり、茶筌が触れなくなつた

りする迄、細々と茶道のボランティアを続けて行こうと思っております。

普段着は、夫の介護で車椅子を押し回すので、Gパンスタイルで過ごしてしまっているので、和服を着るのも良い気分転換になっています。ボランティアを続けるのも体力が要りますので年寄りの冷や水といわれますが、週一回のバドミントンも続けております。

読み返す介護日記や日脚伸ぶ (園子)

茶道は一期一会といわれますが、今月お会いした方と又、来月お会い出来るとは限りません。「気楽に抹茶を」という気持ちで取り組んでおります。

夏帯をきりりと締めて茶の指南 (園子)



茗溪会の仲間を大切にする同窓会活動！ ～地域組織の活動の活性化に向けて～

一般社団法人茗溪会は、平成28年1月、茗溪会の今後の運営の基本大綱である「レビューと中期将来計画」を発表しましたが、組織委員会では、この基本大綱に基づき“地域組織の強化と活性化のためにいま何ができるか”の検討に着手しました。

そのため、まず、平成28年6月に全国の地域組織等（以下、「地域」という。）の実態調査を行いました。

この調査には、37の地域から回答（回答率8割）をいただきましたが、組織委員会ではこの調査結果を踏まえ、

I. 会員にとって魅力ある茗溪会とはどのようなものであったらいいか

（茗溪会は人的ネットワークを構築できているか、また会員に有効なサービスができていないか）

II. 地域の活動を活性化していくために中央組織（以下、「本部」という。）と地域はどのような連携が必要か

などを柱に協議を進めてきました。

そこで、今回の「組織委員会報告」では、これまで協議してきた方向と、2月11日に茗溪会館で開かれた関東甲信越ブロックの代表者会議での協議概要を報告いたします。

一 全国調査から見えてきた

各地域組織の実態(自立度)について

- (一) 地域の自立度には、かなりの差がある。したがって、その支援策は一律ではなくて、地域の要望を踏まえた支援が望ましい。例えば、人的ネットワークの充実による支援強化など。
- (二) 自立度の高い地域では、実行力、活動力のある役員が存在がある。
- (三) そのため、若手を役員に選出するなど、次の時代のリーダーを計画的に育成していくことも必要である。
- (四) 自立度の高い地域では、組織のありようを見直し、会員の増強や組織の強化を図っている。
- (五) 例えば、地域内を「地区」、「行政」、「学校」、「企業」等に区分して、それぞれに担当役員を任命し、緻密な活動を行っている。
- (六) 自立度の高い地域では、「新入会員の促進」や「会費納入率アップ」についても地域独自の工夫と活動を継続的に行っている。
- (七) また、互助事業を拡充していくためには、本部と各地域との情報交換を密にするなどの連携強化が必要である。

二 地域活動の活性化の視点

各地域の現状と特性を踏まえた地域活動の強化と活性化には次の三つの視点が必要である。

- ① 地域の実態に適切した支援のあり方
- ② 地域活動活性化のための支援事業の構築
- ③ 本部に対する要望等への対応

○各地域の実態を踏まえた支援策の方向

- (一) 地域の自立度に応じ、組織のあり方や役員を選出方法の見直しを図る。
- (二) 各地域内で活動している卒業生のグループを探し出し、その中心人物（特に、筑波大学卒業生）を役員に加える。

- (三) 各地域の実態（自立度）にあわせ、三年程度を目途とした支援（例えば、本部の組織委員が参加して組織強化策を作成する等）を行う。
- (四) 異業種交流の実施地域の実態を踏まえ、企業人等による交流会の全国展開を推進する。
- (五) 季刊誌『茗溪』の「茗溪・東西南北」や「桐の葉のつどい」で地域の活動状況や会員動向の周知を図る。

○地域支援についての本部（組織委員会）の姿勢

地域と連携をとりながら、支援策を提案するなど、各地域の活動の活性化に資することをめざす。

その結果をHPや会報等で公開し、各地域との情報の共有化を図る。

- (一) 情報公開の制約はあるが、卒業生や新入生のデータをできるだけ入手し、年度当初に各地域に情報提供をする。
- (二) 会費や寄附（フェロー）の使途や成果について周知し、会費納入率の向上を図る。
- (三) 会費完納者の情報等を各地域に提供する。
- (四) 各地域の課題については、本部と各地域で連携を取りつつ改善策を考える。
- (五) 筑波大学（筑波大学茗溪会を含む）とは一層の連携を図り、筑波大学の学生、大学院生への支援を推進する。
- (六) 公開講座については、筑波大学の学生等のニーズを踏まえた企画や学生の保護者を対象とする講座の企画や運営のあり方を検討する。



筑波大学総合交流会館内(筑波事務所)



互助事業をめぐる協議

三 新入会員勧誘のための支援策

筑波大学を卒業し、各地域で企業や行政や教育の仕事に就いた学生・大学院生にとって、茗溪の先輩たちがどのような職場で活躍しているのかを知ることが、自らのこれからの活躍につながる大きな、そして貴重な情報となる。

そこで組織委員会としては、茗溪人脈をつなぐ「人材ネットワーク」を構築し、学生・大学院生と先輩との交流の機会を、本部だけでなく、地域でも設けていくことを考えている。

○各地域での活動の方向

- (一) 地域組織の見直しを行う。
- 会員構成は、「地区」、「行政」、「学校」、「企業」等に区分し、担当幹事を決めて、未加入の同窓の勧誘等を積極的に行う。
- (二) 企業や行政や教育の場で活躍している先輩を通じて未加入の筑波大学出身者に茗溪会の存在をPRする。
- (三) 地域の茗溪会のHPや会員間のネットワークの活用により勧誘活動を推進する。

- (四) 地域の会報の発行、会員名簿の作成等により、会員間の交流を深める。
- (五) 懇親会費や各部会への補助金等、新会員の負担軽減を検討する。

○新入会員の勧誘支援についての本部の姿勢

- (一) 卒業生や新入生のデータをできるだけ入手し、年度当初に各地域に情報提供する。
- (二) 会費納入増を図るために、会費の主な用途についてHPや季刊誌等で公開する。
- (三) 本部HPや広報誌等の内容を一層魅力あるものにするために情報の受発信を推進する。
- (四) 会員が仕事上の知識・情報が得られるような会合を企画・運営する。

四 会費納入率向上のための支援策

会費納入率の向上のためには、会員に会費が茗溪会の活動のために欠かせないものであることを理解してもらうとともに、会費未納者への督促の工夫、入金方法の改善等が必要である。

○各地域での自助活動の方向

- (一) 総会等では、会員の親睦を図ることを大切にす。
- (二) 会費未納会員への督促活動を一層推進する。
- (三) 若い会員の会費納入に対する意識改革を行う。
- (四) 会費完納者やフェロー会員等の先輩に、引き続き会費相当額の協力を仰ぐ。
- (五) 会費が必要な理由や具体的な成果をPRすることにより、会費納入率向上を図る。

○会費納入率向上支援策についての本部の姿勢

- (一) 会費が、各地域の活動費補助に当てられていることを周知する。
- (二) 会費納入のメリットをSNS等の活用によりPRする。
- (三) 旧称「乙会員」に焦点を合わせ、会費納入の呼びかけを促進する。

- (四) 筑波大学茗溪会との連携により、「卒業生名簿」等の入手に努め、地域へ情報提供を行う。
- (五) 会費納入方法の改善策として、従来の銀行等の決済に加え、クレジットカード決済を導入する。入金方法改善キャンペーンやメリットの周知を行う。

五 ブロック代表者会議の開催

今回の調査で熊本から次のような感謝の言葉と意見が寄せられた。それは、「熊本地震の発生を受け、茗溪会の皆さまから多くの支援をいただき大変感謝している。普段から、隣接地域組織間（九州ブロック等）で連携が日常的になされていけば、有事の際にもスムーズな支援ができるのではないか。」というもの。

ブロック代表者会議では、今後、会員確保、会費納入促進、互助事業の推進等に合わせて、有事の際の支援体制のあり方なども含めて、地域組織間の交流についても検討していく。

——ブロック別構成——	
I. 国内組織	
A	北海道
B	東北（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）
C	関東甲信越（筑波大学、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、新潟、長野）
D	北陸（富山、石川、福井）
E	東海（愛知、岐阜、三重、静岡）
F	近畿（滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫）
G	中国（岡山、広島、鳥取、島根、山口）
H	四国（香川、徳島、愛媛、高知）
I	九州・沖縄（福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄）
II. 国際組織	
	北京、台北、ロンドン、バンコク、ニューヨーク、ソウル

六 本部に対する要望や必要な対策

江田理事長は「茗溪会は、全国の地域組織の集合体である。」と話している。このことは、本部と全国地域との連携の大切さを示すものである。今回の調査では、各地

域から二十二件の質問・意見が寄せられたが、組織委員会としても地域の抱える課題に積極的の応えていくため、次のような対応をとることとした。
(地域の課題への対応策→)

○ 地域から出された意見等

(一) 会員（総会等の参加者）の確保

① 会員増を図るためには、筑波大学の新卒者の情報や会員の異動情報などの地域への開示が必要ではないか。

↓本部と地域の連携のもとで、メール配信等を活用し、「筑波大学新聞(新入生リスト・十年分提供可)」等の必要な情報を提供します。

② 総会で茗溪出身の講師や本部理事等による講演会等を開催し、多くの参加者を募り、会員相互の交流の場を充実させたい。

↓茗溪卒業生の人材データベースの整備を進め、講師名簿を各地域に提供します。

③ 地域でも部活動などを通して帰省した学生との交流を深めたい。

↓人材データベースに現役学生の情報を登録するとともに、学生の帰省時に部活動や就職関係の交流会等を行うことは会員増のために必要な活動です。ぜひ本部と連携をとりながら進めてください。

④ 転動や転居により、茗溪会を離れてしまう会員をなくすために、会員移動について本部及び他支部との連携をはかりたい。

↓転動や転居により所属地域が変わる会員についての情報は、本部と地域との日常的な情報交換が肝要です。そのための日常的な情報交換の仕組みを考えます。(例 移動情報を様式化して送受信する。)

⑤ 遠隔地では、茗溪会の活動に関する情報が共有できていない。参加可能な研修会等があれば、地域組織内にも情報を周知したい。

↓情報の共有は、ブロック代表者会議の開催やSNS機能の活用により具体化していきます。

⑥ 現在の地域名簿が古く更新が必要。本部から地域

分のデータを毎年更新して送って欲しい。また、地域では新入会員のデータを入手する方法がなく若手の勧誘に苦労している。

↓本部から各地域に提供するデータの更新に努力します。

↓各地域でもクラス会やクラブOB会等の諸行事情報を入手し、本部へのフィードバックをお願いします。

↓会員へのアンケート等による継続的な現況把握にも努め、必要な情報については地域へのフィードバックを行います。

⑦ 教職以外の卒業生の動向の情報が欲しい。

↓本部でも努力しますが、地域での産業人の会や官公庁職員との会の開催を実施して下さい。本部の協力が必要であればご連絡下さい。

(二) 各種情報の「見える化」の推進

① 新卒者などの新会員情報や会費や寄附(フェロー)の使途や成果の「見える化」が必要ではないか。

↓各種情報の「見える化」に向けて努力します。

↓会費(三、五〇〇円)の主な使途は、⑦共益費(地域活動費や季刊誌印刷費、公開講座講師等事業費補助等)約六割(二、一〇〇円)、④公益費(学生支援、公開講座、顕彰事業費等)約二割(七〇〇円)、⑤経費(会館修繕費等)約二割(七〇〇円)です。

↓【主な成果の例】顕彰事業では、社会人から「地道な活動に光をあてて頂き、感謝している」との声。筑波大学院生からは「茗溪会賞の受賞が就職活動でも高く評価されました」という報告がありました。

② 地域の総会の活性化のため、本部から著名な講師を派遣してほしい。また講師の旅費、謝金の補助があれば助かる。

↓現在、地域活動費として(会費の一〇%×会費納入者数)の費用や公開講座講師費等の事業費として五万円を補助しています。

③ 今回のアンケートの集約結果は、早急に茗溪会HP等で公表して頂きたい。

↓全地域の代表者宛に十月四日付けで報告し、茗溪会

HPに掲載いたしました。

④ 会費完納者に関する情報を年度当初(五月上旬まで)までに提供してほしい。

↓平成二九年度実施の方向で検討します。

(三) 筑波大学や地域組織との連携・支援方針

① 「レビューと中期将来計画」の中で「母校大学との関係の明確化」、「地域組織と中央組織」等についての方向性が示された。

各地域組織等は、構成人数、運営方法等が様々なため、本部でそれらの具体策を作成し、各地域組織に諮って欲しい。

↓地域の自立度や要望等を踏まえて協議を重ね、実効ある支援策を実施していきます。

② 大学との連携強化を図るため、学群長・学類長との懇談会は継続が望ましい。また、卒業式・祝賀会等における学生・大学院生への入会勧誘、全教員への入会勧誘、校友会との関係などが重要である。それらが円滑に連携・運営できるよう、その環境を整えて欲しい。

↓母校との連携を推進する方向で協議し、具体策をまとめる方向で努力します。

③ 資金的な支援として、現在頂戴している還元金(還元率を減じた分から資金を捻出してよい)に加えて具体的な活動への補助をいただくと助かる。

(例) 地区発行の広報誌の印刷費や通信費補助等
↓現在、地域活動費(会費の一〇%×会費納入者数)や公開講座講師費等の事業費(五万円)や総会出席理事等(祝い金一万円)を補助しています。

↓その他の事業費等補助は、検討課題とします。

(四) 隣接地域組織間における連携

① 熊本地震の発生を受け、茗溪会の皆さまから多くの支援をいただき大変感謝している。普段から各都道府県内にとどまらず、隣接地域組織間で連携が日常的になされていけば、有事の際にもスムーズな支援ができるのではないかと。



関東甲信越ブロック代表者会議参加者

平成二八年二月十一日(土)、茗溪会館で、関東甲信越ブロックの代表者会議を行った。江田理事長から、「レビューと中期将来計画」は、茗溪会の今後の運営の基本的な大綱で、理事会の運営指針となるものである。本日は、全国の実態調査を踏まえ、忌憚のない意見を開陳され、実行可能で成果が期待できるようなれば幸いである。課題の重要性に鑑み皆様の更なるお力添えをお願いしたい。」という挨拶があった。

平成二八年二月十一日(土)、茗溪会館で、関東甲信越ブロックの代表者会議を行った。江田理事長から、「レビューと中期将来計画」は、茗溪会の今後の運営の基本的な大綱で、理事会の運営指針となるものである。本日は、全国の実態調査を踏まえ、忌憚のない意見を開陳され、実行可能で成果が期待できるようなれば幸いである。課題の重要性に鑑み皆様の更なるお力添えをお願いしたい。」という挨拶があった。

七 関東甲信越ブロック代表者会議を終えて

地域との連携を基本とする。それぞれの地域の実態に応じた活性化支援策については、当面実施する事項と今後の対応に向けた事項に分類して協議を進め、具体的な事項についてSNS等を使って情報交換を行い、対応策を提案していきたいと考えている。

○地域支援策についての今後の方針

- ① 課題意識を共有するための情報交換の場が少ない。↓本部と地域が共通の課題意識をもつために、総会以外の情報交換のための場の設定を検討いたします。
- ② 私どもの地域からは茗溪会理事が選出されおり、今後とも連携を深めていきたい。↓これからも連携を密にし、地域活動の活発化を図ってほしい。

(五) 情報交換の場

↓九州・沖縄ブロック会議の開催を含め、各地域と協議しつつ、連携の具体化を計画していきます。↓有事の際の同窓会としての支援体制のあり方を検討します。

○各地域の現状報告(概要)

(茨城茗溪会) 現在は、県庁、常陽銀行、学校(小・中・高) 毎にそれぞれ組織化し、若手の参加を促すなどの活動を行っている。

(筑波大学茗溪会) 会員登録は、約六五〇人で年二回、総会や定年退職者の歓送会の実施や学生を対象にした顕彰事業等の活動を行っている。

(栃木支部) 年二回の会合を行っている。茗溪の歴史を知らない会員がかなりいるので、歴史や由来を教えた。

(群馬支部) 年一回の総会を開催しているが、課題は、義務教育や、民間企業の会員が少ないことなどで追跡調査している。

(埼玉支部) 年一回七月に総会を開催している。参加者が年々減少している。会員は高校教員が中心で民間企業に勤める会員は少ない。

(千葉茗溪会) 千葉銀行や県庁に支部ができた。若い人が参加したとき居心地が悪くならないように知恵を發揮させたいと考えている。

(東京茗溪会) 昨年、東京茗溪会を発足させ、さらに、産業界の会の活動を活性化しようと新たに「茗溪・筑波大学産業界の会」を立ち上げた。

(神奈川茗溪会) 副会長は、会長代行と四分野を分担し、会員増と筑波大学出身者の組織化を進めるとともに「若手の会」を実施し、組織の活性化を図っている。

(山梨支部) 高校教員を中心とした組織化は難しい。年二回の総会を実施しているが、民間、大学関係の参加者は少ないのが課題である。

(長野支部) 高校教員が中心で、年二回の総会を行っている。県庁や各地区にも組織があるので、連携を図り輪を抜け、活性化していきたい。

(新潟茗溪会) 会員約五〇〇人で年三回の会合に一割の会員が参加している。民間企業に勤める会員の参加を促進するため、組織活性化小委員会を立ち上げた。

以上が各地域の現状報告であり、組織委員会の報告を含め、全体として三時間に亘る積極的な協議が行われた。

組織委員会では、“地域組織の強化と活性化”を検討するにあたり、茗溪創基140有余年の歴史と伝統を背景とした明日に向かって“いま何をなすべきか”という問題意識をもって全国調査を分析し、精力的な議論を深めてまいりました。

東京教育大学が筑波大学に生まれ変わって43年。筑波大学の卒業生は、教職関係はもとより、大学、産業界、官公庁、研究所等の幅広い分野に進出し、活躍するようになりました。

しかし、卒業後の同窓の皆さんのネットワークは必ずしも、強いものにはなっていません。

そこで、私たち茗溪会にいま求められているのは、

「会員の皆さんが活躍の場をもっと広げていくためにも人的な絆を強めていくこと」

「これから自らの進路を切り開いていく学生、大学院生に対する先輩としての支援」です。

そのためには、茗溪会のさまざまな活動を支える財政の安定と、全国に会員組織を持つ茗溪会の組織強化が喫緊の課題です。

組織委員会では、今後、この「組織委員会報告」をベースに、各地域との連携を図り、「茗溪会の仲間を大切に同窓会」の構築に向かって具体策を策定してまいります。

(文責) 組織委員会 委員長 川田孝一

第32回 教職受験対策研修会から

教職を希望する筑波大学生に対して、本会と財団法人筑波学都資金財団が主催する「教職受験対策研修会」が3月6日から8日までの三日間「筑波研修センター」で開催されました。今回は受講生が参加しやすいよう参加費を2千円とし、49名(当日欠1除く)が受講しました。

【第一日】

*開講式

筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアアセンター長の五十嵐浩也氏と筑波学都資金財団の田中正造理事長(36教大健康)のお二人から、本研修会の歴史や筑波大学生への期待など受講者を激励するご挨拶をいただきました。

*講義Ⅰ「教員採用試験の概要と対策」

秀明大学教授であり、筑波大学の教職受験対策講座を担当し、今回の研修会全体の企画に当たった高橋基之氏(53筑一自然)の講義により研修がスタートしました。

*講義Ⅱ「今、現場で何が起きているのか」

埼玉県立川越総合高校拠点参与である平野正美氏(54筑二比較文化)から、今後の大きな社会の変化と教育の重要性、教師のやりがい等についてお話しいただきました。
*採用試験合格者の体験発表・懇談

今年度の採用試験に合格した

た昨年度の本研修会の受講者が、体験報告をし、受講者の様々な質問に丁寧かつ的確に答えてくれました。

①池田 駿 茨城県

②平山 明広 神奈川県

③山口 将史 群馬県

④山口 地歴(日本史)

⑤山口 地歴(日本史)



田中正造氏



五十嵐浩也氏



④横濱 崇之 埼玉県 中学校 国語
③山口将史さん
②平山明広さん
①池田 駿さん

*グループワーク 集団面接
四グループに分かれて、発言者と採用試験合格者を面接官役として、受験者、観察者役を交替しながら集団面接を行いました。

*演習 論文作成

作成のポイントの指導に続き、800字から1,000字の論文を作成しました。ハードで充実した一日目が終了しました。

【第二日】

*講義Ⅲ「アクティブ・ラーニング入門」

アクティブ・ラーニングの研究・実践者である、茨城県立並木中等教育学校校長の中島博司氏(57筑一人文)から、ALの現在から今後の展望、勤務校での独自な実践等について、ALの手法を取り入れた刺激的な講義を受けました。

*演習 学習指導案作成

高橋氏の作成のポイントの指導後、実際に指導案の作成を行いました。机いっぱいに資料を広げながら長時間の演習でしたが、受講生の集中力の高さを感じました。

*グループワーク 場面指導

ここからは、班別のGWが続きます。三々四名の小グループでシナリオを作成し、教師、生徒や保護者役を演じることで、それぞれの立場へのイメージを広げました。

*グループワーク 模擬授業

午前に作成した学習指導案を用い、授業者以外は生徒役となって、全員が10分程度の模擬授業を実施しました。みな苦戦したようですが、フィードバック(FB)を通して多くの「気づき」が生まれたと思います。

【第三日】

*グループワーク 集団討論

実施者と評価者を交替しながら、課題を選んで実施しました。課題への向き合い方、当事者として発言できたかどうかなど、FBも活発でした。

*グループワーク 個人面接

三人々四人の小グループで、一名が受験者、その他が面接官となり個人面接を実施しました。五分程度で役割を交替し、全員が受験者をやったところで面接評価表を用いFB。

*グループワーク 個人面接

メンバを替えて二セット実施しました。初めての経験で緊張したとの声が多くありました。

*グループワーク 論文検討

四班ごとに、第一日目に作成した論文を一人ずつ音読し、皆で批評し、助言者が講評する形で全員について行いました。課題の受け止め方、論文の構成など共通する改善点が指摘されました。受講生から「最終日だったらもっと良いものが書けたのに」という感想がありました。それが研修の成果であると思えます。

*振り返りと閉講式

高橋氏が「すべて研修で行ったことは一つにつながっている」と総括的に全体を振り返り、その後助言者が一言ずつ、「まさに今日が教職受験のスタートである」、「教職受験は団体戦、今日の仲間を生かすこと」など受講者への激励と期待を述べました。最後に本会の全国の支援体制を説明し、全日程を終了しましたが、メールアドレスを交換する光景があちこちで見られました。受講者たちの今後の学習に期待です。

*振り返りと閉講式

なお、本研修会の事務処理全般と進行管理を、筑波事務所大森哲郎氏に担当いただきました。

(著 漢会理事 五味田 優 47教大日記)



武井秀一氏

高野大二郎氏

大畑多津雄氏

高橋基之氏

平成29年度 一般社団法人茗溪会 公益・共益・広報等 年間行事計画

1. 公益事業

(1) 公開講座

① 東京地区

(その1)「英語シリーズ」第15回 講師：藤原 保明 先生

日時：7月8日(土)予定 会場：茗溪会館4F

② つくば地区 共催 筑波大学、筑波学都資金財団

(その1)「花のある暮らしーPart.2」 講師：西川 綾子 先生

日時：6月17日(土) 会場：筑波研修センター

(その2)「英語シリーズ」第16回 講師：藤原 保明 先生

日時：9月23日(土)予定 会場：筑波研修センター

* 公開講座の報告(概要)等は、季刊誌「茗溪」に掲載の予定。

* 地域組織等が主催する公開講座、講演会に対する共催・助成も行う。

(2) 顕彰(第16回)

① 対象 国内外で継続して社会貢献(人材育成を含む)活動等を行ない、その実績、成果を上げている団体、個人を対象とする。筑波大学学生・大学院生を含む。

② 対象者の選定

社会貢献活動に関しては、9月末日までに推薦候補者を、各地域組織、本部理事等を通じて公募し、平成29年10月に開催を予定する選考委員会で選考した結果について理事長の承認を得る。

11月に行う顕彰式で該当者に「茗溪会賞」を贈る。

筑波大学生、大学院生については、学内におかれた選考委員会で選考した結果について理事長の承認を得る。

③ 顕彰録 平成30年3月の筑波大学卒業式までに作成して顕彰者及び関係者等に贈呈する。

2. 共益事業

筑波大学生活動等への支援強化、会員の世代間や各地域組織等をつなぐ活動の充実強化、会員相互の交流の推進等を図る。

(1) 「追悼のつどい」の開催

脱・宗派として開催し、遺族、関係者を招き、逝去された会員等の遺徳を偲ぶ。

日程：平成29年9月2日(土)予定

(2) 学生の就職活動を支援するため、大学が開催する各種講座への情報提供及び協力。

(3) 年始と暑中見舞いの時期にあわせて、会員間の交流を深めるための広告を季刊誌「茗溪」に掲載。

3. 広報事業

(1) 季刊誌「茗溪」の発行

季刊誌の発行は年4回とし、特集記事、筑波大学関連の記事、会員情報等を中心に内容の充実に努める。

なお季刊誌の配布先は4回とも正会員のみとし、春号と秋号の配布に際しては筑波大学新聞を同封する。

(2) 茗溪会HP掲載内容等の充実

茗溪会HPでは、季刊誌「茗溪」を再掲するほか、茗溪会主催の公開講座の情報、各地域組織の活動状況、企業人の集まりの情報、筑波大学関連の各種情報等をスピーディに掲載し、季刊誌「茗溪」とあわせて、会員相互の連携を深めるためのツールとして、一層の充実を図る。

「宣揚歌」誕生物語

茗溪会常務理事 高野 力

母校は、明治5年にわが国最初の師範学校として設立され、現在の筑波大学に繋がる伝統を誇る大学です。その歴史の中で、一〇〇年近くも歌い繋がれている歌があります。宣揚歌「桐の葉」です。

一、桐の葉は木に朽ちんより

秋来なば先駆け散らん

名のみなる廃墟を捨てて

醒めて立て男子ぞ我等

二、日の本の教えの庭に

いと高き学舎やありと

人も知る茗溪の水

よし涸れよ濁さんよりは

(作詞 大和資雄)

この宣揚歌「桐の葉」は、私たち茗溪の同窓の集まりでは必ず肩を組んで歌います。

また、筑波大学のスポーツの大会などの応援の時にもこの宣揚歌が歌われます。

しかし、この宣揚歌の誕生には、実は、東京高等師範学校の大学昇格運動にまつわる秘話があるのですが、今ではその秘話を語る人も少なくなり、私が地方の茗溪会の総会に呼ばれたときなど、若い会員の皆さんから宣揚歌「桐の葉」の意味を聞かれることも多くなりました。

そこで、過去の季刊誌「茗溪」に掲載された記事を紐解きながら、宣揚歌誕生の物語を綴ってみたいと思います。

なぜ大学昇格運動が起こったのか

当時、早稲田をはじめ慶応・明治・法政等の私立学校は「…大学」と称していましたが、これらの学校は専門



高等師範学校正門

学校令による学校で、正式な大学ではありませんでした。ところが、大正七年に「大学令」が公布され、翌8年に施行されると、私立の学校は相次いで大学となり、官立の高等専門学校も大学に昇格となりましたが、東京高等師範学校のみが昇格から外れてしまったのです。

そのため、自他共にその存在を認め、高い評価を受けていた東京高等師範学校としては到底受け入れられるものではなく、職員・学生・卒業生が一同となって昇格に向けて立ち上がったのです。これが、「大学昇格運動」であり、その中で生まれたのが宣揚歌「桐の葉」でした。

大学昇格運動とはどのようなものであったのか

この東京高等師範学校の「大学昇格運動」については、この運動を学生委員として経験された国元九郎さんが、茗溪九五六号（一九八三年一月号）に「思い出」として発表されていますので、その一部を紹介いたします。

【昇格運動の起因】

私たちが本科三年（大正八年）の十二月初旬、学校騒動としてあまりにも有名な昇格運動が勃発した。

これは当時は官立大学が東京・京都・仙台・北海道・九州の五校しかなく、私立で大学と通称する学校は数々あったが、これらはすべて専門学校で大学令による大学ではなかった。

第一次世界大戦の好景気で一大躍進をした日本の国力から見ると一層の発展を期するには高等教育の拡充が急務であることは世論の一致するところ。

そこで文中橋徳五郎氏は各官立高等専門学校のうち東京・神戸の二高商と東京高工、東京・広島の高師を単科大学に昇格すると議会で意思表示した。これらの諸

学校は由緒ある一流校で、しかも高工を除き何れも四年制の高等専門学校であった。

然るにいろいろの事情から両高商は大正七年単科の高大となり、一年遅れて東工も工大昇格が決定したのに、孤り高師のみが昇格の線からはずされてしまった。

この予期に反した結末を不満として東京高師の職員・学生・卒業生は一同となって立ち上がった。

世に中橋文相の二枚舌問題として政学界に喧伝されたのがこの騒動の起因である。

【東京高師の地位】

当時東京高師は全国官立専門学校の文部序列第一位にあった。私が入学した大正五年の春、立太子（現帝）の大典があり、その一環として両陛下・皇太子お揃いで公式の国家行事に宮城をお出ましになる盛儀に在京の各官立学校は二重橋前で鹵簿を奉拝することになった。整列の位置は立て札によって指定され、二重橋に最も近い、向って右側が東大、次が高師、第三に高商、以下文部省所定の序列によって広場を埋めて並んだ。

私は当時自分の学校の序列が東大に次いでいることに非常な誇りを覚え、早速郷里で一校を宰する父にこの模様を詳報して喜んだものだった。

その誇り高き高師が下位の二つの高商に優先昇格され、今また三年制の蔵前の高工までも昇格と決定されたのだからたまらない。当時の高師はあまりにも有名な嘉納治五郎先生を校長に戴き、教授陣は東大を兼任する当代一流の学者で、他の専門学校などとは格段の差があった。しかも既に二か年の専攻科を置き、その修了生は学士の称号を授与されていた。

中橋文相は高師の歴史とその実績から見ると当然大学とすべきだと考えての発言だったのだが、政界・学界には高師は中等学校以下の教員を養成する機関だから大学にする必要がないという近視眼的な根強い反対論があり、勅命による教育制度調査会員の中にもこの考えの委員がいたりして、中橋文相も切羽つまって前言を取り消し議事に波乱を巻き起こしてしまっていた。

【昇格運動勃発】

騒然たる議會を反映して毎日の新聞言論界は賛否両論で賑わった。こうしたある日の朝、寮の掲示場に貼られた学生の奮起を促す一枚の檄文―誰が書いたか誰が貼ったか私は今に知らない。とにかくこれが燎原の火の如く一瞬にして鬱積していた全寮を若者の熱気で包んでしまった。

その夜有朋館(クラブ)で有志の会合があり、次いで大食堂で学生総会が開催され、全員一丸となって昇格運動に立ち上がった。

また、母校の命運をかけて一団となって立上った学生は授業を放棄して一代運動を展開し、先輩にも教授陣にも同調を呼びかけた。

そして、校長の嘉納先生の私邸を訪ねた委員からは、先生が「自分は従来卓抜した教師を育成するために高師を一層高度な教育機関に盛り上げねばならぬと繰返して唱えたが、文部省や議会の文教部会は僅かに専攻科の設置で学士の称号を与えるところまで認めたのが精一杯。高師の大学昇格は自分の理想であり念願である。諸君と一体になってこの運動に邁進しよう。というお言葉と共にあの豪気不屈の校長が積年の苦衷を訴えて涙を流された」という報告があり、会場は歓喜と昂奮の坩堝に化した。

以上が国元東九郎さんの書かれた「大学昇格運動」のあらましです。

その後、東京高等師範学校の大学昇格運動は、嘉納治五郎校長や三宅米吉博士らの尽力により、大正8年12月15日に中橋文部大臣が「師範教育の改善向上に努力する」「大学を特設したい」という希望に対して考慮する」という声明を出して、事実上決着したのでした。

宣揚歌「桐の葉」はこうして誕生した

「桐の葉」が生まれた経緯については、茗溪八五四号(一九六二年七月号)に大和資雄さんご本人が書かれて

いますので、その一部を紹介します。

大正八年十二月五日の午後、私は有朋館の実行委員会本部に呼ばれ、明朝までに宣揚歌を作れと頼まれた。有朋館というのは、寮の東南隅にあつて、古いピアノを置き、全校生徒の写真を掲げ、平生なら外来の友人と夏カシなどを食べながら放談するホールだが、その日は非常時の様相を呈していた。

私は、そこからすぐにクラスの緊急集会に行った。クラスにはみんなが集まっていた。大学昇格問題を論じていた。当時の「新大学令」が問題であった。

これは、私学の帝大に対抗する平等運動の成果で、結構な法令であったが、そのしわ寄せが高専に及んでいた。中でも一ツ橋の高商、蔵前の高工、大塚の高師などは、私大の風下に立つことを潔しとしない誇りと伝統を保っていた。

「大学に昇格できないなら、教授たちにやめてもらい、学生一同総退学しよう、昇格か廃校か、いずれかを選ぼう」。わがクラスはそのように決議して猛虎団を結成したのである。

そして、まだ散会しないうちに、私は野球部の室に帰って、新聞紙に筆で、「桐の葉は木に朽ちんより、秋来なばさきがけ散らん」の歌二連を、「人も知る茗溪の水、よし洄れよ濁さんよりは」まで、一気に書き上げた。

私がクラスの集会で昔の早慶戦の応援歌の曲譜に合わせて披露したら、みんなが唱和して、たちまち歌声が室中に満ち、仲間たちが早速この歌詞を謄写した。そして夕食の時それが食堂で寮生に配られ、あれよという間に「桐の葉」の歌声は全寮に拡まってしまった。

その夜、私は宣揚歌を別に作った。そして翌朝、それを本部にもって行くと、「桐の葉」の歌はみんなに知られていて、あれの方がよいということで、別に作った宣揚歌はすてられ、「桐の葉」の歌がそれに代わることになったのである。

大学併置という形で、昭和4年に大学昇格は実現したが、十数年たって、文理大の学徒出陣に「桐の葉」が歌われていると福原教授から知らせを頂いて意外に思った。ま

たこのたびは「桐の葉」の思い出をかけたというご下命を受けたのであるが、どつやらあの歌は生きてゐるらしい。

これが、大和資雄さんが書かれた宣揚歌「桐の葉」誕生の物語です。

「桐の葉」に新しい歌詞が加わる

明治5年に師範学校として誕生した母校は、昭和48年



筑波大学正門

筑波大学として生まれ変わり、茗溪の優れた歴史と伝統を守りながらも、新しい時代に生きる大学として、研究に、教育に、スポーツにと大活躍していることは皆さんもご承知の通りです。そして宣揚歌「桐の葉」にも、新しい歴史と伝統を築いていくために、新たな歌詞が加わりました。

三. 年を経て百年過ぎぬ

いまこそ水は涸るとも

新泉は筑波のもとに

いざ起たん若人われら

いざ起たん若人われら

(作詞 第六代東京教育大学長 大山信郎)

四. 桐の葉は筑波の庭に

いや茂り三〇年過ぎぬ

新しき世紀を拓き

いざ行かんこそぞりて吾ら

(作詞 第六代筑波大学長 北原保雄)

先日、首都リーグ校応援部出身の方が、「桐の葉は」と歌っている姿に出会いました。筑波の地に移っても、宣揚歌「桐の葉」は、茗溪に学んだ同窓にとつて、いまでも大切な歌であることを強く感じました。

茗溪・東西南北

平成28年度秋田茗溪会

総会・懇親会報告

平成二十八年度の秋田茗溪会総会は七月二日に行われました。毎年、総会の開催を大きな事業として活動しており、今回は二十五名の参加で進められました。

総会では、あいさつと代議員報告が会長（支部長）からなされ、議事として事務局から会計報告がありました。引き続き行われた懇親会は、賑やかな雰囲気です。時間経過がすくなく、各テーブルで話が弾みました。また、牛田幸一先生（昭和二十二年理三）・小島貞明先生（昭和三十一年教大農経）をはじめ、近況等のスピーチや懐かしい歌声などいただきました。和やかな時間もあっという間に経過しました。終りには、全員で肩を組み、安田大介氏（平成八年筑体）のエールによる指揮に合わせて「宣揚歌」を斉唱して、盛会のうちに終了することができました。次年度に向け、再会を約束し楽しみにし、散会しました。

毎年、総会への参加者が固定化されてきており、また参加人数減少の傾向も見られてきております。基本的には事務局が学校に勤務しながらの運営状況でもあり、会の盛り上げや情報共有・発信の充実が難しいものと思われまます。今後、参加しやすい雰囲気作りなどで増加を目指すことや会員相互の横の連携などで、特に若い会員の参加を促したいものです。

今後も、本会の活性化を目標に掲げ努力してまいります。結びに、茗溪会のみならずのご発展を心からお祈り申し上げます。

愛知茗溪会活動報告

愛知茗溪会では、総会並びに地区別総会及び教科別の会合等の会員参加が増加するよう取組を進めています。

まず、例年七月初旬に実施する県全体の総会日には、愛知県にゆかりのある会員を講師とした講演会を総会前に開催し、その後懇親会を行っています。二十四年度から始まり、第一回は秦融氏（中日新聞編集局）、以後、増田孝氏（愛知文教大学学長・古筆学）、小林悟氏（基礎生物学研究所教授・生物学）、山本眞輔氏（日本芸術院会員・彫塑）を招聘しました。参加者は以前より倍増して毎回百名を超えるようになり、講演に引き続き懇親会も大いに盛り上がり、活況を呈しています。

本年度の講演会（第五回）は、茗溪会本部から井口副理事長のご臨席を賜り、日本オリンピック委員会広報・企画部長、東京2020開催準備室室長の中森康弘氏から「*Toward & Beyond the 2020*」オリンピック・パラリンピックがもたらす可能性」と題して、オリンピック招致の成功・失敗の分析やオリンピックの魅力と可能性などについて熱く語っていただきました。氏は、世界のアスリートたちが東日本大震災の被災地を訪れて現地の人々を勇気づけてくれたことへの感謝の思い、スポーツを通じた国際活動によって世界平和に貢献したいという強い決意などを力説され、聴衆に深い感銘を与えました。

また、愛知茗溪会としては、県内七つの地区や教科ごとの会合『茗友会（保健体育科）』『愛語会（国語科・英語科）』『茗数会（数学科）』や『筑波大学卒業生の会』等に対して支援・助成を行い、さらなる活性化を図っています。本年度は、新たに『茗溪会愛知支部女性の会』『地歴・公民科の会』『理科・農学科の会』が発足し、第一回を盛会に終えることができました。

以上のように、県全体で行う総会と各種会合の両面から地域活動を一層盛り上げていくこととともに、今後は様々な業種の同窓会員との絆を深めていけるような活動へと進化していくことを目指して活動していきたいと考えています。



全員で「宣揚歌」斉唱



講演する中森康弘氏

大阪茗溪会活動報告

大阪も他の地域と同様に従来の支部組織をそのまま継承して活動しています。現在名簿リストには1,379名の会員がおりますが、平成28年に総会案内を送付した会員数は969名でした。また、平成27年度に会費の納入を頂いた会員は支部会費のみの納入者を合わせても93名の方に過ぎません。会員名簿の更新も懸案事項の一つではあります。財政面からも難しいのが現状です。さらには、会員の名簿管理の非常に難しい状況で転入出の把握も正確に行えない実情です。しかしながら幹事の皆様のご努力によって毎年総会、講演会、懇親会を開催しております。さらに女性会員のみの親睦会茗香会も活動されております。平成26年からは体育出身の同窓会組織である茗友会の皆様のご協力を得て合同で大阪茗溪会総会、茗友会総会を実施しています。また平成25年度には奈良茗溪会のお誘いで交流を始め、それ以降講演会の案内を近畿圏の皆様にはお送りするようにしております。

今回、平成26年度、平成27年度、平成28年度の総会の様子をご報告させていただきます。総会是一部総会、二部講演、三部懇親会という構成で実施しております。総会には毎年江田先生にご来阪いただいております。平気なお姿に会員はいつもお力をいただいております。平成26年は28名の出席で、文部科学省スポーツ振興課長森岡祐策氏に「わが国のスポーツ施策の現状について」2020オリンピック・パラリンピックに向けてという題でご講演いただきました。

平成27年は26名の参加で、副学長の玉川信一先生にお願いいただき、「大学の現状とキャンパスライフ」という講演をしていただきました。また大変遅くなりましたが東日本大震災のお見舞いの寄付金もお渡ししました。

平成28年は29名の参加のもと平成18年体育専門学群卒で摂南大学スポーツ振興センター横山喬之先生に「世界柔道形選手権優勝までの足跡と茗溪会員として柔道家として私にできること」という題で講演いただきました。

毎年講演会では大変貴重で興味深いお話が伺え、懇親会では江田先生を囲み、和気藹々とした雰囲気の中であつという間に楽しい時間が過ぎていきます。人の繋がりが難しい時代ですが同窓の絆は大変貴重でありがたいものであると思っております。これからも大阪茗溪会が会いと絆を強める場を提供し続け、また同窓会活動をより充実したものとするためには、さらに知恵と工夫をだしていかなければならないと幹事一同考えております。同窓の皆様には大阪茗溪会が魅力ある会として認めていただき一人でも多くの会員にお集まりいただけよう努めてまいります。今後とも皆様のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。



平成27年度総会参加者



平成28年度総会
講演する横山喬之氏

著書紹介

「単刊回顧」 北原保雄主要著作前文跋文集
著 者…北原保雄(35年教大・41院修日文)
本の大きさ…A5版 全頁
編集・発行…北原保雄(筑波大学元学長)
発行年月日…2017年1月7日

「八十歳になったのを記念して、これまでに上梓した単行本の序文(まえがき)や跋文(あとがき)を集めてきました。当然のこと、私が関係した単行本でも私が序文や跋文を書いていないものは載っていません。もし興味を感じられるところがありましたらご覧ください。」

目次概要

- 1 日本語学・日本文法研究関係
- 2 狂言研究関係
- 3 日本語史研究関係
- 4 辞書編纂関係
- 5 退官記念論文関係
- 6 児童・生徒向け著書関係
- 7 啓蒙書・一般書等

入手方法…事務局にお問い合わせください。

(茗溪会事務局)



筑波大学はいま

本学OBが、学生起業家の育成を支援



本学では、経営や起業に携わるOB・OGらが講師を務める起業家養成講座「筑波クリエイティブ・キャンプ」を実施しています。

12月21日には東京キャンパスで、同年の講座を締めくくると「起業プラン発表会」が開催され、受講生が自らの起業プランをベンチャービジネスやインキュベーションに携わる本学OBらにアピールしました。それぞれのプランは「実現可能性」「独創性」「事業成長性」「プレゼンテーション力」の4つの指標で評価され、平成28年度の最優秀賞に体育専門学群2年木村友輔さんの事業プラン、「トレーニング共有サービス『シェアトレ』」が選ばれました。ファシリテーターを務めるChanne社長の森川亮客員教授から賞状と優勝カップが手渡されました。

日本サッカー協会会長 田嶋幸三氏が来学



田嶋幸三会長(右)と永田恭介学長

2月14日、日本サッカー協会会長で本学OBの田嶋幸三氏が来学され、永田恭介学長と懇談しました。

選手、指導者として活躍し、現在は国際サッカー連盟(FIFA)理事などの要職も務め、日本はもとより世界の

今春、3つの大学院プログラムが新たに始動

■山岳科学学位プログラム

信州大学、静岡大学、山梨大学と連携して山岳域の様々な環境問題の解決や持続的な管理に対応できる人材育成を目指します。各大学の様々なフィールドセンター等で幅広い分野におよぶ教員の指導のもと、実習や研究を行うことが魅力の一つです。



■教育学(国際教育)修士プログラム

国際教育の分野を牽引する教員及び研究者となる人材を育成します。国際バカロレアを含む国際的な教育プログラムの教授法、カリキュラム、アセスメントについて学ぶとともに、国際バカロレア教員資格が取得できるプログラムです。学位・修士(教育学)

■博士(公衆衛生学)プログラム(3年制博士課程)

国立保健医療科学院との連携により、公衆衛生教育の国際基準に準拠した専門領域に加え、運動・スポーツ、教育・心理など健康関連の学祭領域を広く学び、高度な研究と実践を担う人材を育成します。学位・博士(公衆衛生学)

サッカー発展のために尽力されている田嶋氏と、自他ともに認める大のサッカーファンの永田学長。草の根レベルの普及活動からトップクラスの指導者養成まで、互いのユニークな経験談も交えながら、幅広いサッカー談議に花が咲きました。

田嶋氏はこの後、体育学専攻セミナーにて講演し、学生・教員に向けて、期待や希望を熱く語られました。

この懇談の様子は、本学ホームページに掲載されています
<http://www.tsukuba.ac.jp/president/talk/index.html>

理系の女子を応援、リケジョサイエンスカフェ開催



エンパワースタジオでVR体験

2月18日、理系の魅力を発見し、進路に対する不安を吹き飛ばそうと、女子中高生や保護者、中学高校の教員向け春季リケジョサイエンスカフェ「思い描こう、語り合おう、体験しよう、未来を！」を開催しました。

平成28年度 海外留学支援事業 はばたけ！筑大生 「海外武者修行支援プログラム」帰国報告会

3月3日、海外武者修行支援プログラムの帰国報告会を開催しました。今年度は17件が採択され、当初の計画に沿って海外での交流・研修活動を行った学生らがグループごとにそれぞれの「武者修行」を報告しました。

伊藤真副学長、三好康郎副学長、玉川信一副学長、石野利和副学長、西川博昭副学長・附属図書館長、徳永保大執行役員、金保安則大執行役員、河瀬眞琴グローバル・コモンズ機構・国際交流支援部門長ら、多くの教職員が出席し、武者修行の成果について質問やコメントが寄せられました。



茗溪学園だより

SS研究・個人研究発表会(後援:筑波大学)

表記発表会が2月3日開催されました。平成21年1月に筑波大学・大学会館を会場に第1回を開催し、今回が9回目です。第4回からはSSH指定校となったことから「SS研究」発表が加わりました。大学会館の改修工事の関係で、今回は学校を会場としました。

全体会では、田代校長の挨拶に続き、筑波大学副学長伊藤眞先生よりご祝辞を頂戴しました。生徒発表は、1月に6名の生徒が参加して行われたSSH海外研修報告で、タイ国で実施した地学分野・恐竜化石調査でした。

分科会(7会場)は口頭発表で、SS研究(理系分野3会場)・個人課題研究(文系・芸術系4会場)29名が発表しました。それぞれの分科会には筑波大学の先生方が座長としてご出席くださり、発表者への助言・指導をしてくださいました。

口頭発表終了時間を待ち、ポスター発表が始まります。発表数は、SS研究11名、個人課題研究21名、科学部やSSHプログラム他の研究調査団体8でした。



伊藤眞筑波大学副学長からは生徒達にも激励のお言葉をいただきました

一般公開していますので、他校の先生方や保護者、関心を持った一般の方々も来校し、本校生徒に交じって発表を聞き、質問もしてくださいますので、発表者は緊張もしますがまたとない学びの機会となります。

これらの課題研究は、7月に中間発表(パワーポイントによるプレゼン)が課せられ、12月の本論文提出と全員発表会を経て優秀発表者を選ばれ、この日の発表となります。

開校以来38年間、本校の



タイ国恐竜化石調査報告：参加者6名が英語で発表した



口頭発表：テーマは「植物の成長効率をフィボナッチ数列で考える」、発表者は科学部員ではなくバドミントン部所属、千葉大学主催の高校生理科研究発表会でも発表した



ポスター発表：「国際協力活動を現場で学ぶ」ラオスでの研修(希望者参加)報告



CCT：会場は本校第2食堂。生徒達はきれいに飾り付けをし、ゲストをお迎えする

教育活動の大きな柱の一つとして実践してきました。生徒の一人ひとりが興味関心のある研究テーマを設定して、研究の手順を学び、実験・実習、訪問調査を行い、分析し仮説を立てて検証するなど懸命に努力します。得られた知見を整理し分かりやすく伝達する力も養います。昨年末、中央教育審議会から、新しい学習指導要領の改訂に関わって示された答申に「グローバル化と人工知能の台頭で社会が大きく変わる中、答えのない問題に主体的に取り組む力の育成」とありましたが、そのねらいにも充分応えているこの取り組みを、更なる高みへと進めたいと思います。

クロス・カルチュラル・トーク

JICA研修生との交流

2月18日、中学3年2月の行事としてすっかり定着したCross Cultural Talk (CCT)が開催されました。つくば市

にあるJICAの協力を得て、海外から研修生として来日している方々(今回の参加者はイラン、バヌアツ、エルサルバドル、ベラルーシなど20カ国、農業関連や地震関連の研究者50名)をお迎えし、それ

ぞれの国の方との生の交流を通して世界の国々を知り、かつ日本を伝えるという活動です。今回で35回を数え、長く続く交流活動です。生徒は学級班を単位に36班に分かれ、英語の授業をもって事前の準備をし、自分達の班に入っていただけの方の国のことを調べ、質問を用意します。また、全員が分担して日本文化を紹介するプレゼン(3分以内)を行うので、班ごとに調整しながら各人がそのトピックを考えます。当日は、ゲストの方々も楽しんで参加してください。当日は、ゲストの方々も楽しんで参加してください。当日は、ゲストの方々も楽しんで参加してください。

部活動など結果報告(11~2月)

【中学全国大会】

◎**中学ラグビー部**：東日本大会(12月東京開催)優勝、全国ジュニアラグビー大会(年末大阪開催)5位

【高校県大会】

◎**高校ラグビー部**：第96回全国大会(花園ラグビー場)3回戦進出(ベスト16)、第18回全国選抜大会2年連続10回目出場(4月上旬熊谷ラグビー場)

【高校県大会、関東大会】

◎**高校ラグビー部**：県新人大会優勝、関東新人大会3位

【文化部】

◎**美術部**：第61回全日本学生美術展・最優秀団体賞(27年連続受賞)、個人賞・推奨賞5名特選2名佳作22名39作品(美術部員以外授業作品4名含む)、第60回旺文社主催全国学生サイエンスコンクール・学校特別功労賞(中学)、絵画部門中学銀賞1入選2・高校入選2

◎**書道部**：日本学書展・特選5名準特選16名入選9名、大東文化大学全国書道展・優秀団体賞(23年連続)学長賞1名推薦賞4名特選18名他多数、茨城新聞学生紙上展・水戸市長賞2名優秀賞8名、茨城県高校芸術祭書道部・特別賞1名入選4名

◎**科学部生物班**：第60回日本学生科学賞(中央審査)高校の部優秀賞・研究題「根の触覚-ハツカダイコンの根の「障害物」は何か-」

◎**第23回英語読み上げ算競技全国大会で日本一**：中学2年2名が出場し優勝、準優勝

会費完納会員の皆さまへ

平成29年 4月15日

一般社団法人 茗溪会
理事長 江田昌佑

平成29年度『茗溪フェロー』 ご協力をお願い

茗溪会が新法人としてさらに発展・進化していくために、東京教育大学等前身諸学校から筑波大学にわたる多様な世代を結び、教育界だけでなく広く実業界に活躍する卒業生との地域・職域をこえた連携を強化することを目的として、「茗溪会拡充キャンペーン」を推進し、その一つとして会費完納会員を対象として「茗溪フェロー」を創設いたしましたところ、これまでに多数の方からのご協力をいただいております。誠にありがとうございます。

完納会員の皆さまには、35年間にわたり茗溪会へのご支援をいただき、これまで本会を支えていただきましたことは、誠に感謝に堪えません。

茗溪会は筑波大学や在学生、さらに新しい卒業生に一層の支援をすることは勿論ですが、本会の老・壮・青の力を集めて大きく発展することを期しています。そのためにも、皆さまには本年度もご協力をお願い申し上げる次第でございます。

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として皆さまからの寄付を仰ぎ、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円/年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
6月と12月にお送りする払込取扱票に所定事項をご記入の上、郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
- 3 納入口数に応じて記念品を贈呈するとともに、季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。

第16回 顕彰「茗溪会賞」候補者の 推薦依頼について

茗溪会が主催する顕彰事業は、茗溪創基130周年を記念して始められた公益事業です。平成29年には第16回を迎えます。

顕彰対象は、地域社会にあって広く社会に貢献している青少年や一般社会人となります。

今回も、顕彰候補者を広く全国的な視野から積極的に発掘し、下記の要領により推薦してください。

ただし、公益事業としての趣旨から、政治家、現職の公務員等は避けるほか、現在、本会の本部、地域組織等の役職に在る者は対象外とします。なお、本会会員であって役職にあるものでも、その社会貢献の実績が、社会的に評価されている場合は、候補の対象から除かないものとします。

平成24年度からは、従前の、筑波大学の芸術関係学生への顕彰に併せて、社会貢献を進めている大学院生で、大学当局から推薦された大学院生等も対象にしました。

また、社会的客観性を高めるために、当該地の教育委員会、新聞社（支局等を含む）、放送局あるいは関係団体、有識者、本会会員の提案、参考意見等を積極的に求めてください。

- (1) 顕彰対象 社会貢献活動者、芸術創造活動(作品)者等。
- (2) 推薦 全国の代議員、地域組織等(代表者)、本部理事等から候補者を推薦する。推薦にあたっては、世代、地域、職域、あるいは学内にあっては芸術、スポーツ、また、社会貢献度、研究成果等を考慮する。
- (3) 選考 一般の社会貢献者は、推薦された候補者の中から、選考委員会において顕彰対象者を選考する。選考委員会は、当該担当の副理事長を座長とし、理事会内に設けられている各委員会の委員長を内部委員とし、理事長が委嘱した有識者を外部委員として構成する。
- (4) 推薦締切 一般候補者の推薦締切は、平成29年9月末日、学内締切は、平成30年2月末日として、関係書類を事務局へ提出されたい。
- (5) 顕彰式等 (茗溪会賞) 一般顕彰者を本部に招いて、顕彰式、賀会を行い、大学院生関係者は学位授与式等に併せて行う。

なお、筑波大学生、大学院生に関しては、学内に設置された選考委員会の結果を尊重する。

また、顕彰者の推薦記録等を中心に記載した“顕彰録”を作成して、本部に長く保存するとともに、本人をはじめ国会図書館等の関係方面に贈呈する。

一方、顕彰受賞者の社会貢献活動の概要等を、季刊誌「茗溪」に掲載して、広報・周知を図る。

岩井 英夫	稲葉 則子	伊藤 幸男	伊藤 久雄	伊藤 純郎	市村 一司	市橋 功	板垣 了平	石渡 和実	石橋 泰	石崎 弘美	石黒 正子	石川 利一	石川 道夫	石井 みさ	石井 勝	石井 當己	石井 千昭	池川 敏幸	井口 裕夫	生井 栄一	五十嵐 耕一	五十嵐 修二	飯島 茂	新井 達郎	新井 章慶	阿部 生雄	足立 勉	東 富雄	浅野 義尋	浅野 克己	朝岡 正雄	浅井 康明	赤羽 新一	青田 雅樹	青木 俊輔	阿江 通良	阿江 美恵子	相沢 利一	相沢 鎮夫	逢沢 勝美			
恩田 和也	小野 太佳司	小野 喬	小野 桂市	小根山 延雄	女屋 博昭	小内 稔	巨智部 貞男	落合 勇一	小関 直	奥山 訓近	荻野 治雄	岡本 裕之	岡村 雅彦	岡田 紘子	岡田 正忠	大山 康彦	大原 律夫	大浪 由紀夫	大浪 美雪	大塚 芳郎	太田 邦夫	太田 中	太田 利久	大関 健人	大関 専一	大河内 信之	大久保 利宏	大木 都起子	大岡 久恵	大石 英幸	遠藤 軍司	遠藤 悦雄	榎本 里志	榎本 喜美夫	江田 昌佑	江口 好晴	内山 治樹	内田 雅寛	岩村 雅朗	岩瀨 房夫			
桑原 洋	倉持 三郎	久原 建	楠 千仞	草柳 茂	草野 成虎	日下部 公昭	清原 洋一	木村 清志	木下 匡弘	北原 信夫	北 昭	岸本 弘子	岸川 章修	菊永 武行	菊地 俊策	川村 好秋	川村 美弥子	川村 昌宏	川口 洋	川口 千代	河合 学	鴨下 礼二郎	神島 達郎	上川路 紀久男	鎌田 景子	金本 晋也	兼田 昌尚	金指 隆	門永 敏樹	加藤 英勝	加藤 年雄	加藤 澤男	加藤 昭	勝又 宏	片岡 暁夫	粕川 純一	河西 英樹	角田 博	角井 博	恩田 真紀子			
佐藤 智子	佐藤 恵子	佐藤 悦郎	佐藤 勲	佐藤 功	佐々木 幸枝	佐々木 優子	佐々木 敏恵	笹川 和輝	笹井 弥生	桜井 和男	佐久本 稔	坂本 雄一	坂本 透	坂口 光正	酒井 巖	五月女 武治	三枝 清一	佐伯 孝子	斉藤 隆	今 春敏	小松 利夫	小松 浩	小俣 幸嗣	小林 良一	小林 芳郎	小林 正貴	小林 千洋	小島 正徳	小成 幸男	後藤 恒顕	児島 博史	小坂 悦夫	古賀 正義	鴻巣 敏之	河野 徳子	合田 浩之	小池 清治	小池 一郎	小池 生夫	小畔 東			
須山 ゆり子	鈴木 安孝	鈴木 恕	鈴木 宏子	鈴木 千恵子	鈴木 和男	杉山 進	杉本 正	杉本 淳光	新村 博保	新村 基之	萩司 隆一	中西 眞理	シトルトレイガ	清水 嘉彦	清水 正之	清水 俊幸	島谷 弘幸	島川 茂美	志甫 英一	澁谷 達明	柴崎 敏	柴崎 恵美子	芝崎 茂夫	柴生田 建司	篠澤 卓也	繁桝 義一	茂野 隆一	重永 忠興	重田 親志	三戸 一嘉	参納 哲郎	佐原 傳三	沢田 恵子	佐山 浩	佐野 欣之介	佐野 武一	佐藤 良男	佐藤 英貴	佐藤 成明				
田中 英樹	田中 麗三	田中 禮三	田中 実	田中 守	立山 隆治	田瀬 則雄	竹之内 徳博	武富 敏磨	武田 吉包	武田 恵子	竹田 清彦	武田 和正	武田 桂子	中掘 晋	永田 幸雄	中田 英雄	中多 泰子	中島 敏治	仲沢 市夫	永井 純	仲 暎子	内藤 輝夫	富田 久枝	富田 磨紗子	富田 好郎	轟 良子	高橋 忠弘	高橋 審也	高橋 茂樹	高野 定之	高野 だいわ	高津 富士男	高田 善明	高崎 修	高木 久美	高木 哲也	大学 俊彦	関野 昭三	関口 莊次	瀬尾 玲子	清宮 誠		
西川 美恵子	西海 隆治	仁尾 武博	奈良 隆	奈良 昭男	名見耶 明	中山 義活	中山 芳典	中山 貞夫	中山 佳奈恵	中村 博史	中村 伸夫	中村 桂子	中原 晋	日比野 文一	樋野 俊晴	土方 多美枝	樋口 京子	春成 幸男	原田 満彦	原田 拓二	原田 隆康	原 信夫	原 正	内藤 輝夫	富田 久枝	富田 磨紗子	戸辺 好郎	高松 薫	高橋 誠	高橋 忠弘	高橋 審也	高野 定之	高野 だいわ	高津 富士男	高田 善明	高崎 修	高木 久美	高木 哲也	津田 房枝	月成 満	塚越 二郎	千葉 泰博	玉川 信一
藤井 茂男	福田 省三	福島 正幸	深澤 宏	廣橋 義敬	廣瀬 照夫	平松 雅夫	平根 健夫	平田 雅彦	平木 孝治	平川 信夫	平賀 徹	平賀 一紘	日比野 文一	樋野 俊晴	土方 多美枝	樋口 京子	春成 幸男	原田 満彦	原田 拓二	原田 隆康	原 信夫	原 正	内藤 輝夫	富田 久枝	富田 磨紗子	戸辺 好郎	高松 薫	高橋 誠	高橋 忠弘	高橋 審也	高野 定之	高野 だいわ	高津 富士男	高田 善明	高崎 修	高木 久美	高木 哲也	津田 房枝	月成 満	塚越 二郎	千葉 泰博	玉川 信一	
宮内 完吾	箕輪 裕美子	峰守 秀満	三田村 昭子	三田 浩司	溝口 繁美	水本 節生	水野 民男	水谷 義郎	水越 三郎	三澤 義一	三浦 早江子	丸山 晃市	松本 光弘	松本 正人	松本 弘子	松村 公仁	松原 達哉	松下 健	松下 魏三	松川 重明	松井 康成	町田 一	増谷 まゆみ	増谷 幹夫	真砂 芳夫	真砂 隆	正木 健士	牧野 篤彦	保呂 昭浩	堀江 艇二	洞澤 祥宏	布施 良和	野村 眞弓	野村 隆行	坪内 隆行	都築 功	土屋 道生	土崎 祐一郎	津田 房枝	月成 満	塚越 二郎	千葉 泰博	玉川 信一
和田 美津保	脇坂 高峰	若田部 博哉	従野 明宏	米谷 元捷	吉本 恵子	吉田 廣雄	吉田 俊純	吉崎 繁	横田 宏之	山本 正三	山本 敬三	山本 岩夫	山本 章雄	山田 将之	山下 富雄	山口 満	山口 直行	山口 範雄	山口 香織	谷中 真一	谷中 齊	八ッ田 利幸	八代 勉	相澤 鎮夫	五十嵐 修二	板井 哲夫	稲毛 陽一	遠藤 悦雄	長田 裕	荻部 良吉	小松崎 新三	斎藤 均	佐々木 優子	芝崎 茂夫	高岡 正幸	竹原 悠子	三富 奈美	三富 哲也	森 吉則	八ッ田 利幸	渡辺 満孝	敬称略	

※1091号にお
きまして、デー
タ集計日の関係
で左の方々の掲
載が漏れました。
お詫び申し上げ
るとともに追記
致します。

渡部 史人
渡部 功
渡辺 さち子
渡邊 信行
渡部 昌江

◆東京教育大学農学部農学科 昭和42年3月卒クラス会
 と き 平成28年9月5日(月)～6日(火)
 ところ 越後湯沢温泉

私達のクラスは毎年クラス会を開催しており、東京の時は著溪会館で、時にはメンバーの出身地開催としております。昨年は新潟県が当番で、県境の越後湯沢温泉で開催し、各地から12名が元気に集まりました。翌日は晴天に恵まれ、湯沢高原を散策し、盛会裏に終了しました。写真は湯沢高原ロープウェイ頂上駅の脇での記念撮影です。
 (写真・文責：内藤榮樹)



◆筑波大農林学類3期生会
 と き 平成28年11月20日(日)
 ところ 茗溪会館

卒業以来36年ぶりに会う方々が多数いて、盛り上がりました。24名参加で、今後も年1度は開催しようと約して散会しました。
 写真：宮越(佐久間)リカ、文責：渡辺(草間)悟



◆東京教育大学理学部数学科 昭和37年入学クラス会
 と き 平成28年11月25日(金)
 ところ 茗溪会館

昭和37年入学し、卒業50年記念のクラス会を開催しました。遠く愛媛県をはじめ静岡県、長野県からも参集して13名が集まり、昔話や現在の活動状況など話は弾みましたが、体調や健康の問題にも自然に話題が移るようにもなりました。ほぼ1年おきに開催してきましたが参加者も減少傾向、でも、次は2年後といわず来年の夏に集まろうとのことで散会しました。
 (幹事：小島正徳)



◆茗数会(静岡県)総会
 と き 平成28年11月26日(土)
 ところ マイホテル 竜宮

静岡県では、茗溪の会員で高等学校の数学の教員で「茗数会」を組織しています。会員は現在85人で、毎年、11月の最終か12月の初旬に総会を開催しています。近況報告の中では、日頃の数学の研修の発表もあり、充実した時間を過ごすことができました。

会長：井出朋之 平成28年度幹事：吉川昭宏・石原 諭
 (写真・文責：高田道雄)



◆平成28年度東茗会例会
 と き 平成28年12月3日(土)
 ところ 池袋西口「北海道」にて

東茗会は東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学、筑波大学で東洋史を専攻し、都内の学校に勤務する教員とOBの親睦会です。出席者は30代から70代後半まで幅広く、世代を超えていつも学生時代の昔話や歴史教育の展望まで豊富な話題で楽しく盛り上がりしています。



「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せ下さい。

(写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれで撮影したもので構いません。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても構いません。

(文章) グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31字×5行以内でお願い致します。

◆昭和46年度入学東京教育大学農学部農村経済学科同窓会

とき 平成29年2月18日(土)

ところ 茗溪会館

平成22年以來6年ぶりの同窓会、42年ぶりの人も。全28名のうち福岡・名古屋・長野・福島からや女性の参加もあり、皆が驚く18名の出席。そろそろ仕事もリタイアし、高齢者を意識するが、心はまさに「准高齢者」(高齢者の準備期)、元気がいい。久しぶりに学生時代に戻ったかのように、近況報告など楽しい懇談となった。二次会・三次会まで盛り上がり、3年後を約束して散会した。

(仙波操 記)



◆東京教育大学農学部生物化学工学科 昭和42年入学同期会

とき 平成29年2月25日(土)

ところ 銀座 Sun-mi 高松本店

卒業後初めての同期会は、還暦直後に開催。次は平成26年実施。今回は、入学して50年の節目を祝い集まりました。入学者28名のうち24名と連絡がとれ、20名が出席できました。これも、ひとえに名幹事常盤君のお陰です。新しい分野で活躍している近況報告もあり、皆勇気づけられました。

(写真：林田、記：原)



国立大学の挑戦！ 筑波大学を再び箱根駅伝の舞台へ

筑波大学では、2011年から始まった「筑波大学箱根駅伝復活プロジェクト」を成就させるべく、2015年度に弘山勉氏(本学卒・元資生堂ランニングクラブ監督)を招聘し、チーム強化を本格的にスタートさせました。その成果は早くも表れ、5,000mで3年生の森田が筑波大学新記録を樹立するなど、上位10人の5,000m平均タイムは、この2年で20秒以上も短縮しています。「筑波大学で箱根路を！」と意気込む有望な高校生の入学も年々増えており、プロジェクトの進捗は加速感を増してきています。しかし、「選手をサポートする体制がまだまだ貧弱である」と弘山氏が話すように、巨額の資金を投入して力を入れる私学との差を埋めるのは容易なことではありません。確かな指導者と有望な学生が揃ってきたと言っても、筑波大学の箱根駅伝復活に向けては、依然として茨の道のままです。多くの卒業生が力を合わせることで、予選会通過という厳しい階段を一段一段上ることができるはず。箱根駅伝を創設したのは東京高等師範学校の功績であり、記念すべき第1回優勝校は東京高師です。その舞台に筑波大学は欠かすことのできない存在であるべきなのです。東京高師から受け継がれるDNAを後世(筑波大学の教員・学生)に引き継ぎながら、筑波大学の真の力を世に示す絶好の機会となるのが国民的スポーツイベントになった箱根駅伝です。本学の栄誉と今後の繁栄のために、本学の箱根駅伝復活を卒業生の力で成就しようではありませんか。

本学の箱根駅伝復活プロジェクトの活動はホームページをご覧ください。

【箱根駅伝復活プロジェクト】

<http://tsukuba-hakone.win/>

このページで寄附も受け付けていますので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

【支援・寄附】

<http://tsukuba-hakone.win/futureship/>

【問合せ先】

学生部 金澤 好実
029-853-2247



一般社団法人 茗溪会(第六回)

平成29年度 定時総会開催のご案内

※日時：平成29年5月25日(木) 午後1時30分から

※場所：茗溪会館二階「茗溪」の間

※議題：平成28年度事業報告、決算報告、平成29年度事業計画(案)予算(案)及び補充役員選出。また、総会終了後、懇談会を予定しております。

平成28・29年度 一般社団法人茗溪会 代議員一覧

推薦地域組織	姓名	卒年卒科・群	推薦地域組織	姓名	卒年卒科・群	推薦地域組織	姓名	卒年卒科・群
筑波大	松村 明	昭55筑医専	北	村松 広英	昭57筑一社会	石川	久下 恭功	昭49教大体
筑波大	山本 哲哉	平1筑医専	江東	三保 和彦	昭59筑一自	福井	南部 則雄	昭53筑体
附属校	小山 浩	昭54筑体	品川	真当 哲博	昭57筑二人間	静岡	岡 丹治 正	昭56筑三基
北海道	山本 伸弘	昭52教大健	新宿	浅井 一郎	昭55筑一人文	静岡	岡 齊藤 浩幸	昭58筑二農林
北海道	大沼 寛	昭47教大武	杉並	奈良 隆	昭53筑体	静岡	岡 熊野 善介	昭55筑修教
青森	滝口 孝之	昭55筑体	墨田	上村 肇	昭55筑一社会	愛知	知 村松 利之	昭53筑体
岩手	平藤 淳	昭54筑体	世田谷	徳田 安伸	昭55筑二農	愛知	知 川村 昌宏	昭56筑一自
宮城	松坂 孝	昭55筑体	台東	柳 久美子	昭50教大体	愛知	知 竹下 裕隆	昭56筑一社会
秋田	越後谷真悦	昭55筑体	千代田	戸谷 賢司	昭48教大体	岐阜	卓 大橋 則雄	昭57筑二人間
山形	津田 浩	昭58筑一自	中央	中村 穎司	昭35教大國	滋賀	賀 町田 登	昭47教大健
福島	鈴木 弘文	昭46教大米	豊島	久保 淳	昭56筑体	三重	重 辻 昭司	昭55筑体
茨城	郡司 丈児	昭53筑一人文	中野	浦部 利明	昭56筑一人文	京都	都 川合 英之	昭56筑体
茨城	広瀬 茂	昭57筑三社工	中野	池田 浩二	昭57筑芸	大阪	阪 松本 秀範	昭53教修農林
茨城	鈴木 一弘	昭58筑修教	練馬	柴田 誠	昭55筑一自	大阪	阪 岡村多加志	昭55筑一自
茨城	高瀬 宏樹	昭55筑一自	文京	塩津 真	昭62筑修経	大阪	阪 笹原 寿峰	昭56筑芸
茨城	仙波 操	昭50教大農経	港	笹 のぶえ	昭56筑二比文	兵庫	庫 林 啓司	昭53筑体
茨城	武井 秀一	昭51教大化	港	松村 直樹	昭61筑三社工	兵庫	庫 永井 邦治	昭54筑体
茨城	中島 博司	昭57筑一人文	目黒	金田 喜明	昭56筑一人文	奈良	良 谷垣 康	昭53第一人文
栃木	宇田 貞夫	昭52教大応数	北多摩北	守屋 一幸	昭52教大文	奈良	良 松田 勝雅	昭54筑体
栃木	齋藤 宏夫	昭58筑修教	北多摩南	初見 豊	昭52教大農	和歌山	歌 土肥 二郎	昭57筑一自
群馬	市川 敏美	昭57筑二比文	西多摩	小林三代次	昭51教大英	鳥取	取 小倉 健一	昭53筑体
群馬	馬 福島 実	昭56筑二農林	神奈川	嵐 實	昭29教大農化	鳥取	根 松本 弘光	昭46教大体
埼玉	荒井 修二	昭25理三	神奈川	小山 和夫	昭33教大教	岡山	山 長尾 隆史	昭55筑体
埼玉	相澤 鎮夫	昭27理三	神奈川	京野 勝	昭40教大農化	広島	島 大辻 明	昭47教大体
埼玉	奥谷 多作	昭34教大工芸	神奈川	佐々木悦子	昭46教大体	山梨	山 口 鍋井 邦久	昭38教大体
埼玉	矢島 章司	昭35教大体	神奈川	本木 幹雄	昭50教大体	徳島	徳 島 安永 潔	昭55第二農林
埼玉	前嶋 富雄	昭47教大木工	神奈川	望月 正大	昭51教大数	香川	香 川 高井 信一	昭55筑体
千葉	葉 小宮山伴与志	平1筑博体	神奈川	大畑多津雄	昭52教大数	愛媛	媛 媛 畑野 智司	昭55筑二生
千葉	葉 青木 寛	昭48教大武	山梨	梨 菊島 良治	昭54筑一人文	高知	高 知 下坂 速人	昭53筑体
千葉	葉 内藤 秀子	昭53筑体	山梨	梨 浅川 英三	昭57筑体	福岡	岡 永沼 真紀	昭57筑体
足立	葉 猿渡 末治	昭55筑一自	長野	野 平野 吉直	昭54筑体	佐賀	賀 野中 通兼	昭53筑体
荒川	立 田原 章孝	昭51教大応数	長野	野 上原 陸徳	昭54筑一自	長崎	崎 山口 千樹	昭60教二生
板橋	川 井上 芳明	平1筑体	長野	野 竹村 和也	昭57筑三基	熊本	本 川上 修治	平1筑修教
大田	橋 竹村 恭一	昭56筑一自	新潟	潟 永井 成一	昭41教大法政	大宮	分 渚 洋行	昭53筑体
葛飾	田 飯島 睦子	昭56筑修教	新潟	潟 内野 信昭	昭56筑体	宮崎	崎 児玉 洋一	平2筑三社工
	飾 渡邊 悟	昭62筑博農	富山	山 坪池 宏	昭56筑二人間	鹿児島	鹿 児 島 原口 和哉	昭56第一自

追 悼 録 (敬称略)

和田 宏平 15大哲 28・11・13
〒957-0811 新発田市荒町547 次男 和田 俊彦

石橋 敏男 15文二 29・2・21
〒830-0403 三潞郡大木町大角178-1 妻 石橋 喜子

地崎 猛 15理一 28・11・7
〒185-0003 国分寺市戸倉3-16-20 長男 地崎 望

原 信 15理二 28・2・12
〒386-1324 上田市五加941 妻 原 甲子え

大和田幡市郎 16体一 27・12・2
〒318-0012 高萩市有明町1-61 妻 大和田京子

鈴木 春海 18理二 27・11・14
〒427-0011 島田市東町1964-12 次女 園田 玲子

小島 次郎 19文五 28・7・4
〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町310-17 長男 小島 浩

中山 尚郎 19体一 27・11・7
〒371-0034 前橋市昭和町1-24-8 妻 中山 輝子

佐藤 次郎 19臨生 28・8・28
〒116-0013 荒川区西日暮里3-3-10 妻 佐藤 千代

千葉 良蔵 19農教 28・11・5
〒158-0091 世田谷区中町4-22-8 長男 千葉 良雅

井原 周濟 20理三 29・1・7
〒300-2436 つくばみらい市絹の台6-14-15 次女 岩瀬 節子

飯田 一彦 20農教 29・1・27
〒245-0051 横浜市戸塚区名瀬町56-13 長男 飯田 正彦

国谷 敏朗 22理一 28・9・25
〒178-0063 練馬区東大泉3-26-13 長女 金本美恵子

鵜飼 貞雄 22農教 29・2・16
〒371-0024 前橋市表町2-26-9 長男 繁山 克也

長沢 常夫 23理二 28・2・15
〒167-0054 杉並区松庵3-24-22 妻 長沢 敬子

棚田 一裕 23理四 29・2・8
〒395-0001 飯田市座光寺4352 妻 棚田 富子

横田 正信 23臨生 28・11・9
〒299-3248 大網白里市萱野555 長男 横田 宏良

渡辺 淑夫 24理一 28・11・13
〒191-0062 日野市多摩平3-15-30 次女 渡辺 久美

秋葉 登 24理二 28・11・30
〒261-0011 千葉市美浜区真砂4-4-3-507 長女 加藤 雅子

山口 礼郎 24芸 28・12・20
〒581-0845 八尾市上之島町北1-13-1 長女 日高 成美

廣瀬 弘己 24農教 28・12・8
長男 廣瀬 高英

河地 安彦 25文一 28・8・22
〒226-0005 横浜市緑区竹山4-1-3-2-107 長男 河地 宏幸

萩原 祥宏 25理二 28・12・28
〒352-0017 新座市菅沢2-4-38 妻 萩原佐知子

小幡 正巳 26農教 29・1・29
〒933-0022 高岡市白金町8-18 妻 小幡加津子

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・ 遺族住所・氏名

佐藤圭一郎 26農教 28・11・19
〒036-8227 弘前市桔梗野4-12-28 妻 佐藤 恭子

草野 成虎 27大漢 28・7・15
〒939-0741 下新川郡朝日町泊399 妻 草野富久子

田村 矩子 28教大倫 28・10・2
〒151-0071 渋谷区本町4-15-9 長女 小野田知津子

村田 良夫 29教大物 28・11・13
〒237-0067 横須賀市鷹取1-21-12 妻 村田佐代子

遠藤 悦雄 29教大農化 29・1・2
〒371-0034 前橋市昭和町3-38-26 妻 遠藤 絢子

田口 守隆 29教大体 28・8・31
〒569-0826 高槻市寿町1-27-4 妻 田口 倫子

岡田 潔 30教大地 28・11・20
〒355-0045 東松山市宮鼻1031-4 妻 岡田真砂子

古屋 健治 31教大心 28・10・26
〒233-0006 横浜市港南区芹が谷5-4-19 妻 古屋志づ糸

中野 幸治 31教大彫 29・1・23
〒153-0051 目黒区上目黒3-44-8 弟 中野 雄司

笹森 秀夫 31教大植 28・8・28
〒271-0076 松戸市岩瀬34 妻 笹森トモ子

菊永 武行 31教大農経 29・1・12
〒854-0096 諫早市下大渡野町670-1 妻 菊永 陽子

藤善 尚憲 31教大体 28・12・6
〒632-0094 天理市前栽町310-2 妻 藤善 瑞子

出口 玲子 32教大工芸 28・3・13
〒174-0071 板橋区常盤台1-34-14 次男 出口 道生

吉岡 賢順 32教大健 28・2・15
〒302-0022 取手市本郷3-9-19 長男 吉岡 賢真

吉原 健一 33院修数 28・10・29
〒249-0002 逗子市山の根2-9-26 妻 吉原 保子

岩崎 芳敬 34教大数 28・10・25
〒186-0005 国立市西2-9-5 妻 岩崎佐和子

谷口 州男 34教大体 29・2・1
〒519-4323 熊野市木本町206 妻 谷口とみ子

功刀 武 37教大国 28・2・26
〒399-0101 諏訪郡富士見町境7854 長男 功刀 裕

景谷 豊 37教大体 29・2・14
〒191-0011 日野市日野本町4-20-40 妻 景谷 弓子

都築 義之 37教大体 28・11・25
〒479-0862 常滑市小倉町1-35 長男 都築 東

福島 克己 38教大数 28・2・28
〒168-0074 杉並区上高井戸1-28-8 妻 福島由美子

廣瀬 俊英 47教大武 28・11・9
〒458-0835 名古屋市緑区鳴海町上汐田221 妻 廣瀬 静子

宮崎 徹 48教大武 28・5・29
〒030-0948 青森市虹ヶ丘1-3-2 妻 宮崎由美子

川腰 善一 56筑三社工 28・12・26
〒939-0341 射水市三ヶ1375 妻 川腰 桂子

「夏号からのシリーズ特集の予告」

人間 嘉納治五郎を語る

わが国では嘉納治五郎という「柔道家」「講道館柔道の創設者」という受けとめ方をされることが多いのですが、実は嘉納治五郎は筑波大学の前身である東京高等師範学校の校長を3期23年の余にわたって勤め、わが国の教育改革やアジア各国からの留学生の教育、そして体育・スポーツの普及に大きな功績を残した人物です。



また、嘉納治五郎は、わが国最初のIOC委員として、戦争で中止になってしまいました。1940年(昭和15年)の東京オリンピックの招致を成功させるなど世界を舞台に活躍した国際人でもありました。

筑波大学のキャンパスには、7年ほど前に大塚キャンパスにある嘉納治五郎の肖像彫刻と同じものが設置され、筑波大学の学生にとっても嘉納治五郎という名前は身近な存在になりつつありますが、その実像は必ずしも正しく受けとめられているとは言えないようです。

わが国は3年後の2020年(平成32年)に東京オリンピックの年を迎えます。またグローバル化の進展により教育の現場では国際的に活躍する人材の育成も求められています。

そこで、東京オリンピックの招致活動や柔道の国際化のために世界を舞台に活躍するとともに、東京高等師範学校校長としてわが国の教育に大きな足跡を残した嘉納治五郎の実像に迫りながら、私たちはいま嘉納治五郎から何を学び取っていったらいいかを3回シリーズで考えていきます。

◇第一回 オリンピックを世界の文化にしたい

「嘉納治五郎が目指したオリンピック」

◇第二回 「精力善用」と「自他共栄」

「嘉納治五郎が求めた柔道の理念」

◇第三回 教育のこと、天下これより偉なるはなし

「教育者としての嘉納治五郎」



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO

Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹 (学校法人 若溪学園理事)

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当: 常務執行役員 人事部長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曾根タクシー株式会社

取締役社長 塚本 一也

(平成3年環境科学研究科修了)

☆24時間営業

☆お迎え料金無料

☆カード利用OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL

029-864-0301

FAX

029-864-4727

メールアドレス

<http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル

0120-000-302

各営業所に通じます

広報

定時総会開催のご案内

一般社団法人茗溪会の平成29年度（第6回）定時総会を平成29年5月25日（木）午後1時30分から、茗溪会館2階「茗溪」の間で開催致します。議題は平成28年度事業報告・決算報告、平成29年度事業計画（案）予算（案）及び役員選出等です。

「筑波大学新聞」4月号を同封します

「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。4月号には筑波大学への新入生の情報が掲載されており、会員の皆様から好評をいただいております。その他、筑波大学の様子も詳しく掲載されておりますので、ご利用ください。

茗溪会から筑波大学支援の助成金を贈呈

本会では筑波大学の学生への助成金を贈呈しておりますが、最近では、茗溪会賞（芸術部門）と卒業式に対して助成金を贈呈しました。

卒業予定学生の就職活動にご支援を

来春卒業予定の筑波大学生のために、諸先輩のご指導ご支援をお願い致します。

「問い合わせ・連絡先」 筑波大学学生部就職課

企業・団体関係 電話 029-853-6001

教員・公務員関係 電話 029-853-2249

平成29年度茗溪会人事について

（平成29年4月1日現在）

理事長 江田 昌佑
副理事長（財務経営担当） 井口 武雄
副理事長（同窓会・大学対応担当） 西川 潔
常務理事 高野 力

事務局

大塚事務所 室岡 和彦（所長） 岩田 敏昭
和泉 千代 前田 三郎（非常勤）
筑波事務所 立山 雅博（所長） 大森 哲郎（非常勤）
野崎 芳恵（非常勤）

訂正

・前号（平成29年正月号）で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P 26 「秋の叙勲」瑞宝小綬章

（正） 桐生 貞雄

（誤） 桐生 貞夫

P 26 「秋の叙勲」瑞宝小綬章 岩見 恒典

（正） 「春の叙勲」

（誤） 「秋の叙勲」

P 26 平成28年春の叙勲（追記）

（正） 東 富雄

（誤） 東 昌雄

表紙の言葉 デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔

多くの学生の姿を表紙に載せたいと常々思っていたが、最近のスナップでも難しい。今回も若干心配だが、入学式（2014年）のめでたさに免じて許してもらいたい。もちろん主役は真ん中の嘉納治五郎像である。日本のロダンとも喩えられる朝倉文夫作の自然で、すぎがない立ち姿であるが、この日はどことなく新入生やその父母に囲まれ、戸惑っているような表情にも見えた。筑波大学にこれが設置されたのは、生誕150年にあたる2010年である。元東京教育大学の占春園（現存）にある嘉納像と全く同じ型から鑄造し立てられた。中央図書館前の中村晋也氏（日本芸術院会員・茗溪会々員）作ミゼレー像と並んで筑波大学を代表するランドマークである。なお、嘉納と筑波大学の深い関係は周知のことだが、本誌において次号から数回にわたり嘉納治五郎をめぐる特集が予定されているという。今から楽しみにしている。

編集後記

東京教育大学の卒業生にとってなじみの深い、嘉納治五郎の像が立つあの占春園が、いま荒れ放題になっていて、立ち入り禁止の状態になっているとのこと。

そのため、先般IOCのバツハ会長が筑波大学東京校舎を訪れた際に、近代オリンピックのために大きな貢献をした嘉納治五郎像に出会いたいと望まれたようですが、その希望はかなわなかったようです。

季刊誌「茗溪」では、次号から嘉納治五郎の特集が始まります。

そのような時期に合わせたかのように、いま、嘉納治五郎像の立つ「占春園復活プロジェクト」を立ち上げようという動きも出てきているようです。

私も、一日も早く占春園が復活し、卒業生だけでなく地域の人たちにとっても憩いの場となればと願っています。（編集担当 前田三郎）

お願い

・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡下さい。
・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

平成29年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪 会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 03-3394-0136

FAX 03-3394-1767

Email info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 0015-014977

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 029-850-1044

FAX 029-850-1045

Email tsu3innu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇 山浦印刷株式会社

予告

公開講座

(1) 東京地区

(その1)

テーマ…「英語シリーズ」第15回

講師…藤原保明先生

日時…平成29年7月8日(土)予定

場所…茗溪会館

(2) 筑波地区

(その1)

テーマ…「花のある暮らし」
— Part・2 —

講師…西川綾子先生

日時…平成29年6月17日(土)

場所…筑波研修センター

(その2)

テーマ…「英語シリーズ」第16回

講師…藤原保明先生

日時…平成29年9月23日(土)予定

場所…筑波研修センター

顕彰式

日時…平成29年11月

場所…筑波大学 大学会館

追悼のつづ

日時…平成29年9月2日(土)

場所…茗溪会館

 株式会社 阿部兄弟建築事務所
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人 (昭57 築基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント
福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(3607)0551

所長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士



株式会社 十和観光

代表取締役 井坂 信洋

URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

大塚英語教育研究会

入会歓迎! 英語(文学・語学・教育)に興味ある方

筑波大文京校舎で月例の英文講読・講演等を実施
ホームページ <http://otsuka.news.cocan.jp/>

代表 藤原 保明 (昭48教修英
平3筑博文言)

E-mail: yyysstpf@mail.accsnet.ne.jp

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」

TSUKUBA WAY プロジェクト

~茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!~

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ

代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡
2004年卒)



永井建設株式会社

〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7

電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940

営業部長 高野 力 (昭48教大木工)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 ケエスアイ

東京営業所 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-3-1
東京フジビル502号室

TEL 03-5357-1668 FAX 03-5357-1669



株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号

電話 03(3456)1578

常務執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)

つくばでの宿泊・研修に

ご家族で、お仲間

最大収容180名、お一人3,700円から

茗溪会員とご家族に割引あり

研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に

シングル145室ツイン5室和室5室/研修室2室(120・40名)

和室も研修室として利用可(20畳、10畳)

館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等(数名から80名まで)

アクセス

秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車

●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車

徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5

TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail: center@meikei.or.jp



あれもこれも、憧れが叶う。 一日一組、全館貸切 東京・文京区、結婚式場。

嘉ノ雅茗溪館 メール会員募集中

入会金・登録料・更新料0円

右のQRコードを
スマホで読み取り、
空メールを送信。
これだけで登録OK!

昭和初期、日本の学問や教育向上のために
建てられた名門の会館である「茗溪会館」は、
かつて花嫁たちの憧れの式場でした。
その会館が今、フランコイタリアンのお料理を愉しむ、
全館貸切のプライベート結婚式場と生まれ変わり、
あなただけのオリジナルウエディングを叶えていきます。

筑波大学
在校生・卒業生
関係者
ご優待特典

〔ご婚礼〕

費用総額より5%引き
その他、期間限定プランなど、季節に
応じた特典も多数ご用意しております。

〔お食事〕

飲食合計より10%引き
ご家族様、ご親族様もご利用可能。
※カフェでのご利用は対象外です



かのび
嘉ノ雅  茗溪館
めいけいかん

Restraunt & Cafe ~レストラン・カフェのご利用も~ | ~パーティー・会議でのご利用も~ Party & Meeting

東京メトロ丸ノ内線

営業時間/11時~20時(火曜定休)

「茗荷谷」駅 徒歩1分 TEL.03-5319-1888

かのび

検索

独身ビジネスマンの結婚

受験・就職活動と同じように、
努力により結果を出せるフィールドです。

男性目線で気になる3点にしっかり応えます。

- ① 結婚の対象として納得できる女性会員
- ② 仕事と両立しての活動（独自の会員サイトを構築）
- ③ プライバシーへのきめ細かな配慮*

ご婚約

検索

ご結婚カップル&ご両親の言葉。
スタッフブログ更新中です。

信頼は確かな実績から。(ご結婚カップルの一部です)

出身大学	勤務先	出身大学	勤務先	出身大学	勤務先
◆筑波大	商業	◆筑波大	教育	◆筑波大	情報通信
♥大妻女子大	保険	♥立教大	不動産	♥東京家政学院大	商業
◆筑波大・院	建設	◆東京理科大	情報通信	◆筑波大	電気機器
♥学習院大	精密機器	♥筑波大	医療	♥中央大	倉庫・運輸
◆筑波大	金融	◆筑波大・院	非鉄金属	◆筑波大	海運
♥フェリス学院大	化学	♥帝京大	電気機器	♥立教女学院短大	輸送用機器
◆筑波大	輸送用機器	◆筑波大	金融	◆筑波大・院	化学
♥上智大	地方官庁	♥成城大	建設	♥早稲田大	金融

※平成28年1月、財団法人日本情報経済社会推進協会様より、プライバシーマーク遵守に高い評価をいただき、名誉ある「感謝状」を授与されました。

キュービッドは慶應義塾大学OB会の親睦パーティから発足して36年。結婚を誠実にお考えの方限定の会員制クラブです。

■パンフレット「The Cupid Style」をお気軽にご請求ください。

☎ 0120-0333-82

■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

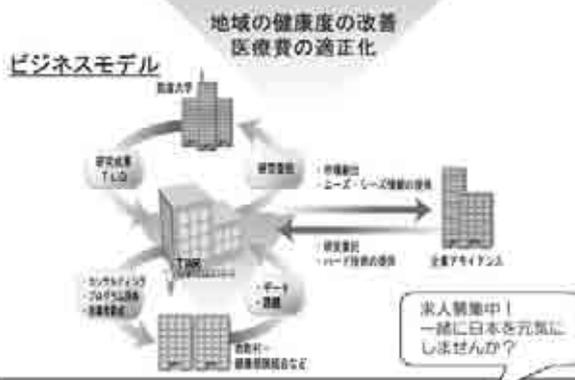
●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。



日本の心の文化を受け継ぐ結婚
Cupid Club

TWR 「日本全国を元気にする！」
超高齢化社会に伴う健康課題に対して、
筑波大学の研究成果に基づく健康サービスを提供しています。



株式会社つくばウェルネスリサーチ <http://www.twr.jp/>
〒277-8519 千葉県柏市若菜178番地4 KOIL505
Tel: 04-7197-2360 Fax: 04-7197-2361

■ 法人向けに、新卒・中途採用など様々な人材を求めています！ 詳細はHPをご覧ください！



リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群(2016年開設)

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
学長 三谷 高康
入試事務室相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ共同)
¥ 6,500→平日¥ 4,800 休前日¥ 5,800

シングルA (バス・トイレ付)
¥ 8,200→平日¥ 6,200 休前日¥ 7,200

ツイン (バス・トイレ付)
¥13,800→平日¥ 9,800 休前日¥12,800

朝食バイキング ¥ 1,050→¥ 760

大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2
TEL 03 (3356) 4605
FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口
都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口
地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口
} より徒歩7分
JR新宿駅より車5分



Living Together

共生をテーマに、
人と環境の理想的な未来を

◆ 新菱冷熱
www.shinryo.com

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
- ◆国際バカロレア (IB) 認定校です
2017 年 4 月から IBDP 課程開始
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です

平成 29 年度公開行事

- 5月20日(土) オープンキャンパス
6月10日(土)・11日(日)
桐創祭(文化祭)
6月24日(土) 帰国生説明会
7月 8日(土) 高校受験生対象学園説明会



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)